

新しい幸せを、わかすこと。



NORITZ REPORT 2015

ノーリツレポート



### 株式会社ノーリツ

本社：〒650-0033 神戸市中央区江戸町93番地  
お問い合わせ先：csr@noritz.co.jp

NORITZ REPORT 2015  
※ この冊子は2015年3月現在のものです。 1504-10

ツールNo.097653



株式会社ノーリツ



企業理念

# お湯と健康 愛とやすらぎ 豊かな暮らしをつくる ノーリツ

創業の原点

お風呂は人を  
幸せにする  
太田敏郎

1951年、ノーリツの前身である  
能率風呂工業株式会社は兵庫県神戸市に誕生しました。  
創業者の戦時中の体験をもとにしたお湯とお風呂に対する誰にも負けない情熱で、  
戦後の日本にお風呂文化を広めていく努力を惜しみませんでした。  
誰もが安心してお風呂を楽しめるように、高効率で高機能、  
そして安全で環境に優しい製品を求め続けました。  
それは、65年目を迎える今日でも決して変わることはない原点であり、  
ノーリツグループのDNAです。

## お湯のある生活を通して人々を幸せにすること

私たちが社会に対してお役に立てること、  
それは、かけがえのないお湯を通して人々を幸せにすること。  
これまでも、これからも変わることない  
ノーリツグループが果たすべき社会的役割だと認識しています。

## 企業理念体系

### ノーリツグループの基本姿勢

1. お客様に安全かつ安心な商品を提供します
2. お客様が感動する価値を提供します
3. 公正で透明性のある企業活動に徹します
4. 地球環境と人へ配慮します

### ノーリツグループの3C

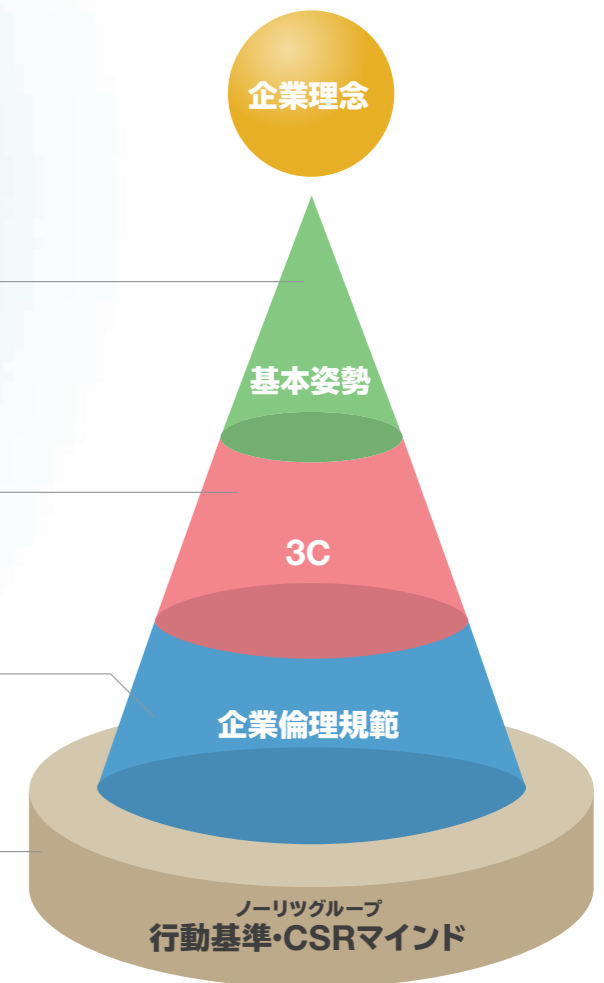
- |           |             |
|-----------|-------------|
| CHANGE    | 私たちは変革し続けます |
| CHALLENGE | 私たちは挑戦し続けます |
| CREATE    | 私たちは創造し続けます |

### ノーリツグループの企業倫理規範

1. 法令の遵守と社内徹底
2. 道徳観・倫理観に基づく行動
3. 公明正大な行動

### ノーリツグループのCSRマインド

1. 社会の継続的発展に関する国際ガイドラインの認識
2. 社会課題の解決に対し主体的に役立とうとする意識
3. 地域との連携



# 創業以来変わらない“お湯”への思い。 日本の文化を支えてきたノーリツは、 次なるステージへ。

ノーリツは1951年の創業以来、常に世界一の“お湯”を目指し様々な挑戦を繰り返してきました。  
「お風呂は人を幸せにする」という創業の原点には、戦後復興期における人々の生活水準を向上させたいという情熱が凝縮されていました。  
その思いと情熱は、65年目を迎える今日でも変わることはありません。

- 国内売上高
- 海外売上高
- - - 住宅着工数

※このデータはIRで社外公表している数値を記載しています

**1951**  
神戸市元町に  
能率風呂工業株式会社を設立



**1956**  
研究所を兵庫県  
工業奨励館内に設立



**1962**  
明石市魚住町に明石工場を竣工、  
自社生産を開始



**1968**  
社名を  
「株式会社ノーリツ」に変更



**1986**  
明石市二見町に  
中央研究所を竣工



**1987**  
・八王子市に基礎研究所を竣工  
・東京/大阪証券取引所第一部に上場



**1984**  
CIを導入し、  
企業ロゴマークを変更

**1990**  
明石市二見町に  
明石本社工場・  
総合研修センター竣工



**1993**  
中国上海市に合弁会社  
を設立



**2011**  
明石市二見町に  
環境機器開発センター竣工



**2009**  
ガス石油機器業界で初めて  
「エコ・ファースト企業」の認定を取得



**2012**  
国連グローバル・コンパクトに署名



**2013**  
中国の住宅設備機器メーカー  
櫻花衛厨(中国)股份有限公司に出資

**2014**  
・豪州給湯器メーカーDux Manufacturing Limitedを買収  
・厨房機器ブランド「ハーマン」を「ノーリツ」に統一

## → グローバル展開開始

**2001**  
ハーマン、ハーマンプロに出資し業務提携開始



**2002** ノーリツアメリカ  
米国カリフォルニア州に  
ノーリツアメリカを設立

**2004**  
・能率香港有限公司を設立  
・能率(上海)住宅設備有限公司を設立

**2005**  
能率(中国)投資有限公司を設立



**1951**  
能率風呂A型

さめないタイル風呂「能率風呂A型」を発売

**1961**  
初代ガス風呂釜

アルミ製ガス風呂釜「GS型」を発売

**1963**  
小型湯沸器・ポイラ

小型湯沸器「GQ-4」、石油ポイラ「OM型」を発売

**1970**  
マジコン

浴室内から種火の点火・消火ができる「マジコン」発売

**1977**  
ユービック

100V電源のガス瞬間貯湯型給湯器「ユービック」発売

**1979**  
ユラージ

瞬間湯沸器と風呂釜を一体化したふる給湯器「ユラージ」発売

**1983**  
全自動ふる給湯器

全自動ガスふる給湯器「GRQ-1600A」を発売

**1988**  
SBL

システムバス「SBL」を発売

**1989**  
エスタジオ

システムキッチン「エスタジオ」を発売

**1997**  
ドライホット

温水式浴室暖房換気乾燥機「ドライホット」を発売

**1998**  
グラシオ

0.75坪→1坪を可能としたリフォーム用システムバス「グラシオ」を発売

**2004**  
エコジョーズ

高効率ガスふる給湯器「エコジョーズ」を発売

**2013**  
ハイブリッド給湯・暖房システム

空気熱とガスでお湯をつくる「ハイブリッド給湯・暖房システム」発売

**2014**  
スマートコンロ

ツイストスイッチで操作ができる「スマートコンロ」発売





トップメッセージ

社会と事業の継続的発展と  
事業を通じたCSR活動で  
新しい幸せを、わかすこと。  
を目指しています。

代表取締役社長 兼 代表執行役員 **国井 総一郎**

「お湯のある生活を通して  
人々を幸せにすること」が  
ノーリツグループの社会的役割です

代表取締役社長の国井です。私は、給湯器を主力事業とするノーリツグループにとって、お湯のある生活を通して人々を幸せにすることが変わることない社会的役割と考え、持続性のある成長を通じた長期的な企業価値向上にコミットしています。

当社グループは、ガス・石油給湯機器の国内シェア約40%のリーディングカンパニーで、1951年に家庭用風呂の普及のために神戸で設立しました。創業時から研究開発を重視して、エネルギー効率が高く、経済性と環境負荷の両面から優れた商品を生み出し続けることで、「お湯のある豊かな暮らし」に貢献し、日本のお風呂文化を創造してまいりました。さらに、1993年には中国上海で現地企業と合弁会社を設立し、翌年にはガス給湯器の現地生産、2002年には米国でタンクレスガス給湯器の販売を開始しました。国内で培った技術力を活かし活動の場を世界に広げ、2011年からグループビジョンである「新しい幸せを、わかすこと。」を実践しています。

中期経営計画「Vプラン16」の進捗

社長就任の2年後にあたる2011年に、長期の企業価値向上のため、6カ年の新中期経営計画「Vプラン16」を策定しました。グループビジョン「新しい幸せを、わかすこと。」、基本方針「経営基盤の安定と持続的成長を実現する」、「従業員が自信と誇りをもてるノーリツグループにする」を目標とし、2016年度の売上高2,500億円、営業利益150億円を目標としました。前半の3カ年に、国内では、現状の延長線上での連続的な変革を実施し、海外では2013年に中国の給湯器メーカー櫻花衛厨（中国）股份有限公司に出資するなど、非連続な変革をおこないました。

数値面では、2013年度まではほぼ計画通りに進み、売上高2,003億円、営業利益96億円に拡大することができましたが、2014年度は、売上高2,189億円、営業利益74億円という結果となりました。

減益要因としては、消費税増税前の駆け込み需要の反動による住宅着工の減少などの国内市場の低迷ですが、太陽光発電システムへの参入により、主力の給湯機器における営業力、研究開発力が分散してしまったことも一因です。

中期経営計画「Vプラン16」の要約

グループビジョン

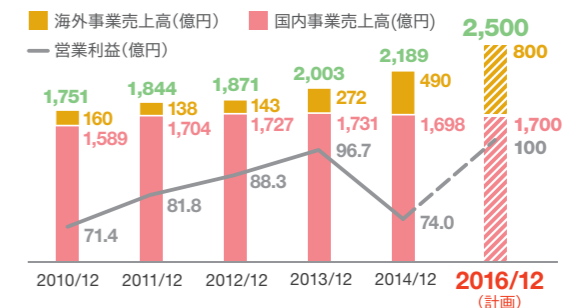
新しい幸せを、わかすこと。  
人と地球の笑顔に向けて、  
暮しの感動を追求するノーリツグループ

ブランドメッセージ

エコ＊リラ＊キレイ

基本方針

- ① 経営基盤の安定と持続的成長を実現する
  - ② 従業員が自信と誇りをもてるノーリツグループにする
- 「成長戦略」の実現 「強いブランド」の実現  
「強い連携」の実現 「強いチーム」の実現



	売上高	営業利益
<b>2016/12 (計画)</b>	<b>2,500億円</b>	<b>100億円</b>
国内事業	1,700億円	55億円
海外事業	800億円	45億円

また、2014年5月、当社グループが製造・販売した浴室暖房乾燥機の一部機種において不具合が発生しました。お客さまおよび関係者の皆さまに多大なご迷惑をおかけしたことを、深くお詫び申し上げます。今後、安全・安心への取り組みを一層強化し、再発防止に努めてまいります。

そのような状況を直視し、国内における市況の変化、海外での更なる成長機会を踏まえ、「Vプラン16」を見直しました。

今後の大きな方向性としては、国内は強い分野で収益性を回復し、海外で高い成長を実現することを目指します。売上高の目標は変わらず、成長のバランスをより海外を中心にしていきます。

国内では原価低減を急ぐとともに、コスト・性能の両面で競争力のある製品を投入していきます。昨年12月には、新エネルギー分野の「家庭用太陽光発電システム」から撤退し、強い分野に経営資源を集中することを決めました。

海外については、櫻花衛厨（中国）股份有限公司とのシナジーを高めるとともに、非連続の変革を加速します。また、「Vプラン16」の立案時点では、海外比率を15-20%程度に想定していましたが、現在では30%以上も視野に入れるところまでできております。昨年12月には豪州

の温水機器メーカーDux Manufacturing Limited (Dux) を買収しました。

各数値に関しての変更は、下記の表をご覧ください。

Vプラン16の数値見直しについて

市場環境を踏まえて16年計画を修正

	2011年当初	修正後	当初比
売上高	2,500億円	2,500億円	修正無し
営業利益 (営業利益率)	150億円 (6.0%)	100億円 (4.0%)	▲50億円 (▲2.0%)
ROE	8.0%	5.7%	▲2.3%

- 修正理由
- ① 家庭用太陽光発電システムからの撤退
  - ② 国内の主要商材の成長率鈍化（エコジョーズ、燃料電池など）
  - ③ 海外事業の順調な成長（豪州温水機器メーカーDuxの買収など）



### CSRと経営の融合を目指して

ノーリツグループのCSRの方針は「事業戦略に沿った経済的価値の追求」、「社会の課題解決に貢献する社会的価値の向上」、「ノーリツらしさの追求」を柱に、地球環境を含むすべてのステークホルダーの皆さまの新しい幸せをわかしていかうとするものです。事業そのものが社会貢献であり、お湯のある生活を通して人々を幸せにすることは、変わることがない当社グループが果たすべき社会的役割と考えています。

2012年12月には、国連が提唱する「グローバル・コンパクト」の10原則に賛同し、署名いたしました。グローバル・コンパクトの4分野10原則に則り、社会と企業がともに持続的な成長を実現するため、企業理念や世界的な枠組みに基づいた活動を進めてまいります。

当社のガス・石油給湯機器は国内で約2,000万世帯のお客さまにお使いいただいています。お客さまが毎日使う「お湯」をつくる機器を主力商材とする当社グループは、製品のライフサイクルを通じて年間約1,260万tonのCO<sub>2</sub>を排出しています。これは、日本のCO<sub>2</sub>総排出量の約1%にあたります。当社製品のエネルギー効率が改善すれば、日本のCO<sub>2</sub>排出を軽減できるので、重要な役割であると認識しています。高効率ガス給湯器「エコジョーズ」をはじめ、ガスのエネルギーと空気中の熱エネルギーを組み合わせお湯をつくる「ハイブリッド給湯・暖房システム」、ガス発電・給湯暖房システム「エコウィル」といった商品を提供しています。

当社は、2009年にガス・石油機器業界で初めて「エコ・ファースト企業」の認定を受け、様々な環境への取り組みについて社会との約束をおこないました。その約束として、家庭使用時のCO<sub>2</sub>排出量を20万ton/年削減することを目指します。

さらに、「3つの笑顔プロジェクト」として住宅設備機器メーカー視点での浴育・食育/森を守る活動/福祉施設とタイアップした障がい者自立支援活動をおこなっています。また、阪神・淡路大震災からの復興イベントである神戸ルミナリエへの協賛と従業員のボランティア参加など、社会、地域とともに栄えるという視点での活動をしています。

私たち自身が20年前に阪神・淡路大震災で被災し、たくさんの応援をいただいたことから、2011年の東日本大震災時には、従業員からの発案でシャワーブースを提供し、被災地でお湯を使っていただきました。現在も「みちのく未来基金」への支援活動を通して震災で親を亡くした子どもたちの夢の実現を応援しています。私たちの理念を深め、繋いでいくためにもこうした活動は、今後も継続していきたいと思えます。

その他ではCSR視点での調達の推進や人権対応など、様々な課題に取り組んでいます。

### 財務諸表に載らない「見えない資産」を磨きます

当社は、国内シェア約40%の給湯機器など、競争力の高い商品を有しています。従業員の社会的責任の認識が高く、20年前の阪神・淡路大震災の時にわずか2日で被害のあった生産ラインを復旧させ、生産再開を実現しました。この様に危機的な状況になるほど強い力を発揮します。

当社グループは、2007-2008年度に当期純利益が赤字に陥り、従業員が自信を失っていました。従業員は企業価値向上の最も大切な原動力なので、2009年の社長就任以来、組織の活性化、企業理念の浸透のために、従業員との対話に優先的に時間を投入しました。加えて様々な施策の効果で、その後の業績を回復することができました。2011年からは、従業員とビジョンを共有する場「ビジョンCafé」



を開催し、これまでに延べ93カ所、約1,000人の従業員と対話をしてきました。当社のビジョンは着実に従業員に浸透してきており、今後いかなる市場環境においても、中期的な成長の牽引役になると信じています。

### 長期的な企業価値向上に向けて

持続的な成長のためには、お客さまとの信頼関係の構築が重要です。そこで「品質向上とCS（顧客満足度）向上」を最優先課題のひとつとして取り組み、お客さまの声を経営に活かす仕組みづくりを進めています。ものづくり段階・施工段階での品質向上だけでなく、お客さまが製品をご使用になる段階での問い合わせ先である、コンタクトセンターの対応品質向上にも力をいれてまいります。

株主さまとの関係においては、収益向上によりROEを

継続的に改善することを目指しています。配当について、2014年度は2円増配の32円の配当を実施いたしました。

コーポレートガバナンスの面では、経営の健全性、透明性を高め、経営判断の最適化を図ってまいります。

今後も事業を通じて日本、世界の人々の暮らしを快適にすることに貢献し、社会課題を解決することで、持続的な成長に向け取り組んでまいります。今後とも当社グループへのご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 環境への配慮は 給湯器メーカーの 極めて重要な責務です



#### 国連グローバル・コンパクトの10原則



- |      |      |  |
|------|------|--|
| 人 権  | 原則1  | 企業はその影響の及ぶ範囲内で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、尊重する。 |
|      | 原則2  | 人権侵害に加担しない。                              |
| 労 働  | 原則3  | 組合結成の自由と団体交渉の権利を実効あるものにする。               |
|      | 原則4  | あらゆる形態の強制労働を排除する。                        |
|      | 原則5  | 児童労働を実効的に廃止する。                           |
|      | 原則6  | 雇用と職業に関する差別を撤廃する。                        |
| 環 境  | 原則7  | 環境問題の予防的なアプローチを支持する。                     |
|      | 原則8  | 環境に関して一層の責任を担うためのイニシアチブをとる。              |
|      | 原則9  | 環境にやさしい技術の開発と普及を促進する。                    |
| 腐敗防止 | 原則10 | 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組む。          |



# 11年間の主要財務・非財務データ

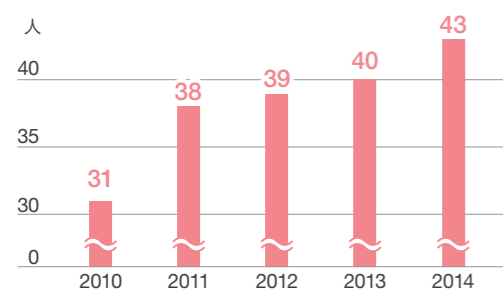
	2004.12	2005.12	2006.12	2007.12	2008.12	2009.12	2010.12	2011.12	2012.12	2013.12	2014.12
<b>連結損益状況 (会計年度)</b> <span style="float:right">単位:百万円</span>											
売上高	171,597	176,047	182,076	180,017	181,254	169,350	175,067	184,353	187,061	200,327	218,943
売上原価	118,942	122,698	128,178	127,248	129,765	119,909	121,135	129,928	133,008	140,773	150,599
販売費及び一般管理費	44,960	46,400	48,091	50,410	48,042	45,071	46,787	46,238	45,214	49,884	60,936
営業利益	7,693	6,949	5,806	2,358	3,445	4,369	7,144	8,186	8,839	9,670	7,407
経常利益	8,740	8,402	7,028	3,019	3,102	4,821	7,380	8,704	9,813	11,058	9,439
当期純利益	4,950	4,273	2,996	△ 1,208	△ 1,796	838	3,843	4,798	5,979	6,387	3,479
<b>連結財政状態 (会計年度末)</b> <span style="float:right">単位:百万円</span>											
純資産額	85,779	89,089	92,236	87,130	79,993	81,449	83,419	85,621	92,724	109,673	118,244
総資産額	148,772	151,533	155,151	156,682	145,028	136,573	143,845	150,837	159,910	191,324	206,061
<b>連結キャッシュ・フロー状況 (会計年度)</b> <span style="float:right">単位:百万円</span>											
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,055	8,080	8,696	2,756	7,904	12,416	12,613	9,777	11,167	9,673	13,476
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 16,268	△ 9,695	△ 6,516	△ 18,031	△ 3,742	290	△ 2,898	△ 9,028	△ 7,340	△ 10,430	△ 14,658
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,644	△ 3,560	△ 1,139	8,846	△ 4,722	△ 7,066	△ 955	△ 1,432	△ 1,731	△ 574	△ 2,814
現金及び現金同等物の期末残高	21,075	15,887	17,323	11,708	10,816	16,461	25,029	24,371	26,765	26,936	24,274
<b>1株当たり情報</b> <span style="float:right">単位:円</span>											
純資産額	1,750.8	1,860.9	1,890.5	1,804.7	1,666.2	1,700.8	1,742.6	1,790.3	1,938.9	2,231.0	2,372.1
当期純利益	98.0	86.7	62.6	△ 25.3	△ 37.6	17.5	80.3	100.3	125.0	133.6	72.8
配当金	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0	30.0	30.0	30.0	32.0
<b>経営指標</b> <span style="float:right">単位:%</span>											
売上高営業利益率	4.5	3.9	3.2	1.3	1.9	2.6	4.1	4.4	4.7	4.8	3.4
自己資本比率	57.6	58.8	58.3	55.1	55.0	59.6	58.0	56.8	58.0	55.8	55.0
総資産当期純利益率 (ROA)	3.3	2.8	2.0	-	-	0.6	2.7	3.3	3.8	3.6	1.8
自己資本利益率 (ROE)	5.9	4.9	3.3	-	-	1.0	4.7	5.7	6.7	6.4	3.2
<b>非財務データ</b>											
連結従業員数 (人)	4,604	4,765	4,907	5,290	5,273	5,134	5,299	5,519	5,703	9,165	9,422
国内特許保有数 (件)	721	871	931	1,010	934	850	743	767	842	904	921
製品によるCO <sub>2</sub> 削減貢献量 (万ton/年) ※詳細はP.26	-	-	-	-	-	-	6.4	8.2	9.9	11.1	11.7
CO <sub>2</sub> 排出量 (ton) ※詳細はP.26	-	-	-	-	-	-	22,892	21,621	21,636	22,152	21,071

注釈: 記載金額は百万円未満切り捨てて表示しています

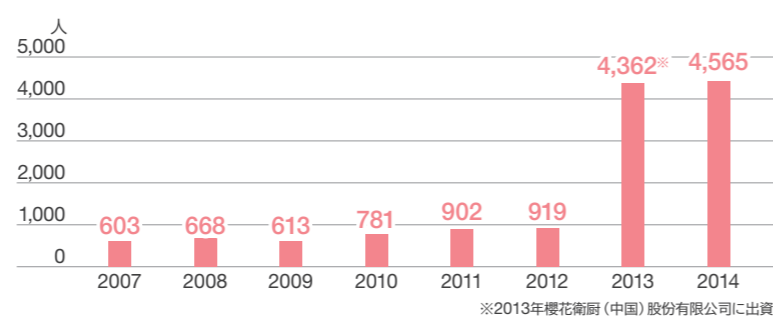
計算式: 売上高営業利益率=営業利益/売上高\*100  
 自己資本比率=純資産÷少数株主持分  
 自己資本利益率=自己資本/総資産\*100  
 総資産当期純利益率(ROA)=当期純利益/前期当期平均総資産\*100  
 自己資本利益率(ROE)=当期純利益/前期当期平均自己資本\*100

## ダイバーシティについて

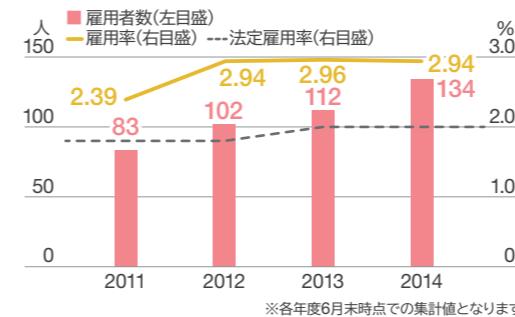
女性管理職数 (単体)



海外従業員数

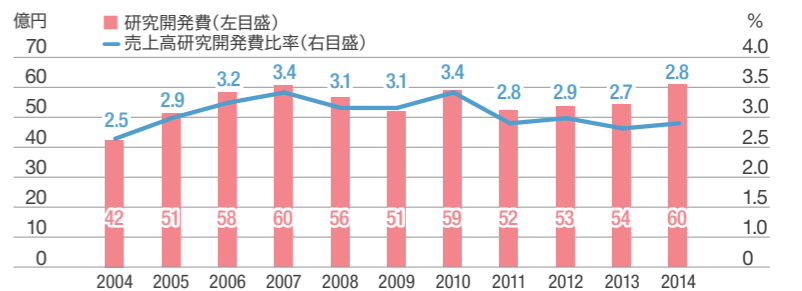


障がい者雇用率 (グループ適用全体)



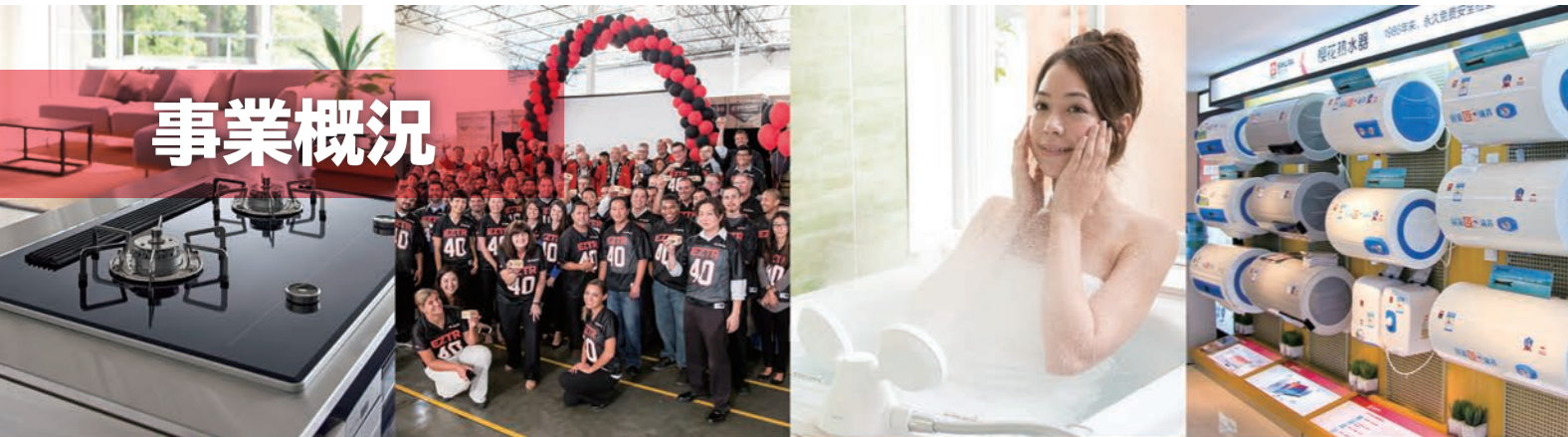
## 研究開発について

研究開発費・研究開発費比率 (対売上高)



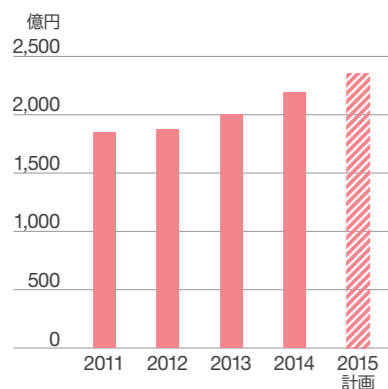


# 事業概況

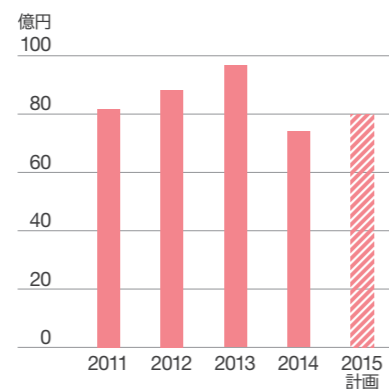


ノーリツグループは、温水空調分野を中心に“お湯”をテーマに様々な製品を提供しています。使いやすさ、使い心地は勿論のこと、限りあるエネルギーを効率的かつ効果的にご利用頂けるように環境配慮型製品の開発に努めています。これからは、国内だけではなく、海外での事業展開も注力し、人と地球の笑顔に向けて暮らしの感動を追求していきます。

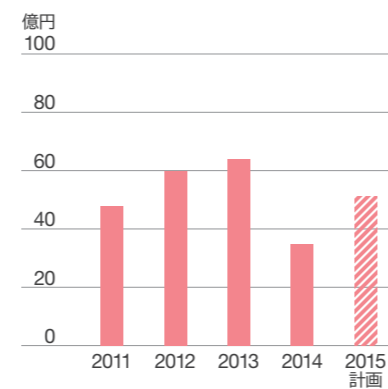
売上高



営業利益



当期純利益



ノーリツグループの2014年度は、売上高が2,189億円（前年同期比9.3%増）、営業利益が74億円（同23.4%減）となりました。当期純利益につきましては、浴室暖房乾燥機のリコール費用、家庭用太陽光発電システム事業整理損などを計上したことから34億円（同45.5%減）となりました。

このような状況のもと、当社グループは市場環境の変化による国内の不採算事業の整理や豪州の温水機器専業

メーカーの買収など、今後も継続して成長するための各種施策を実行いたしました。

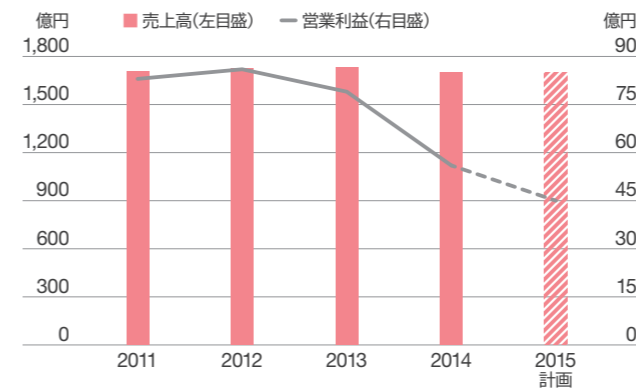
2015年も引き続き経営環境は厳しいですが、未来につながる先手を打ち、未来を切り拓く年にします。売上高2,350億円（前年同期比7.3%増）、営業利益80億円（同8.0%増）、当期純利益51億円（同46.6%増）を目指してまいります。

# 国内事業

## 2014年の実績

国内事業は、売上高が1,698億円（前年同期比1.9%減）、営業利益が56億円（同29.6%減）となりました。高効率給湯器、ガスビルトインコンロ、コージェネレーションシステムなどの拡販に取り組みました。

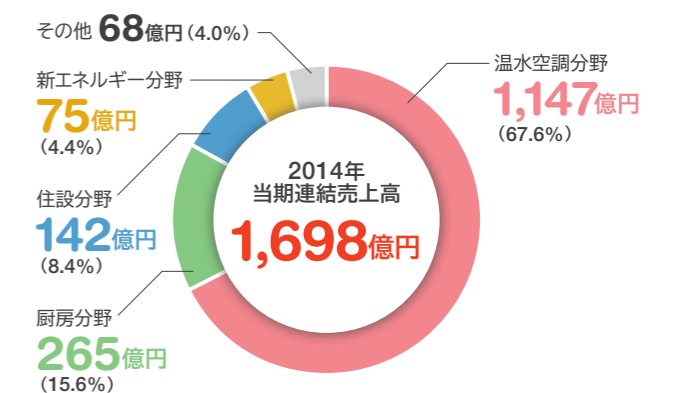
国内事業売上高・営業利益推移



## 2015年の見通し

国内の市況環境が不透明なことから、売上高1,700億円（前年同期比0.1%増）、営業利益45億円（同19.8%減）を計画します。省エネ住宅ポイント制度に当社主力商品が対象になるなど、政府の景気回復策などの活用や積極的な新製品投入により需要喚起を進めます。

国内事業の分野別売上高・構成比

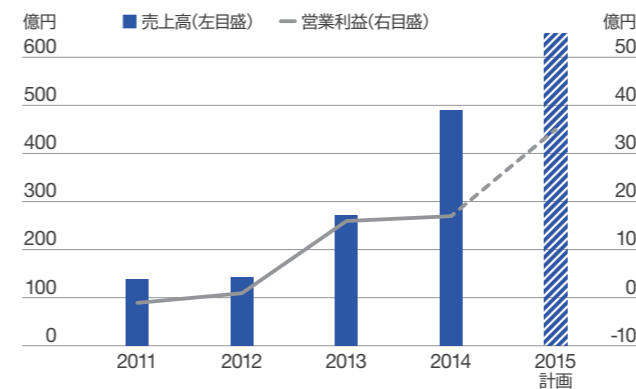


# 海外事業

## 2014年の実績

海外事業は、中国、北米などを中心に業績拡大を図り、売上高が490億円（前年同期比80.2%増）、営業利益が17億円（同5.9%増）となりました。また、経営資源の有効活用として豪州の温水機器専業メーカーDux Manufacturing Limited を買収し、今後の成長に向けた布石を打ちました。

海外事業売上高・営業利益推移

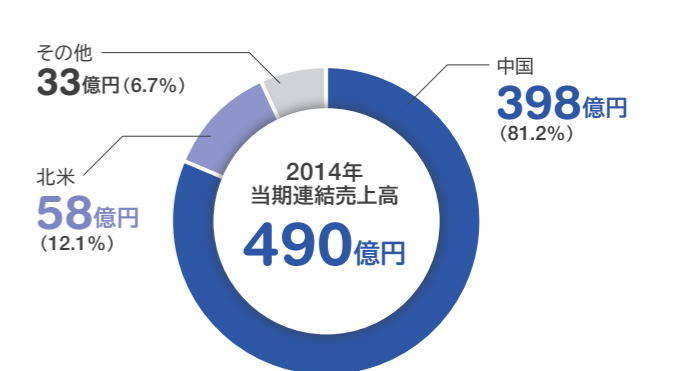


## 2015年の見通し

売上高650億円（前年同期比32.5%増）、営業利益は35億円（同96.6%増）を計画します。

世界中で高まる環境・省エネニーズを背景に、中国、北米での成長を見込みます。買収したDux Manufacturing Limited 社の業績も通期で寄与してまいります。

海外事業のエリア別売上高・構成比

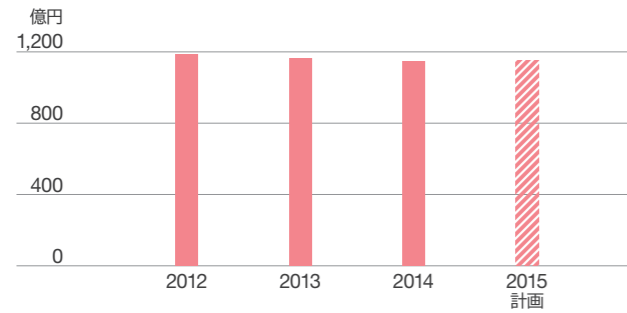




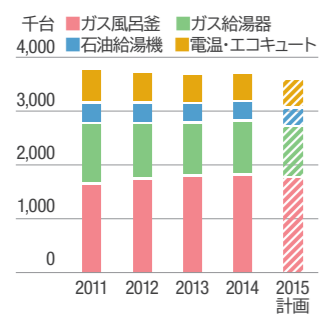
# 国内事業

## 温水空調分野

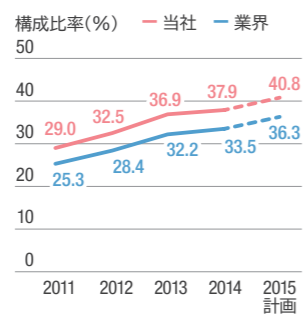
### 売上高



### 温水機器需要推移 (当社推定)



### エコジョーズの販売構成比率

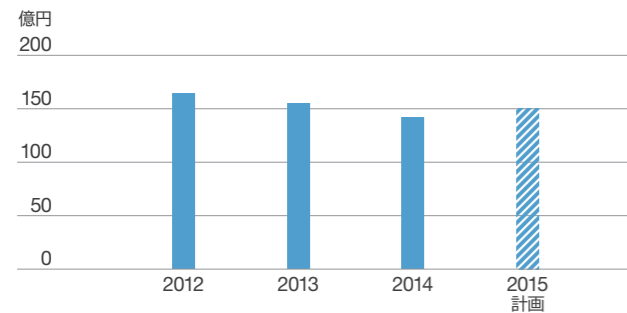


温水空調分野は、燃焼制御技術、熱交換技術、流体制御技術の3つを組み合わせ、安定したお湯を作り出す技術力を強みにガス・石油給湯機器を生産・販売しています。安定的に発生する取り換え需要の中で、環境に優しい付加価値の高い商品の普及を促進することで着実な成長を図っています。2014年は消費税増税後の国内市場の低迷の影響を受け減収となりましたが、注力する高効率給湯器エコジョーズの販売構成比を37.9%まで高めました。

2015年は、温水機器の需要が前年より減少することを予想しますが、政府の景気回復策などを積極的に活用しながらエコジョーズ、エコフィール、ハイブリッド給湯・暖房システムなどの環境配慮型商品の積極的な普及を進めます。

## 住設システム分野

### 売上高



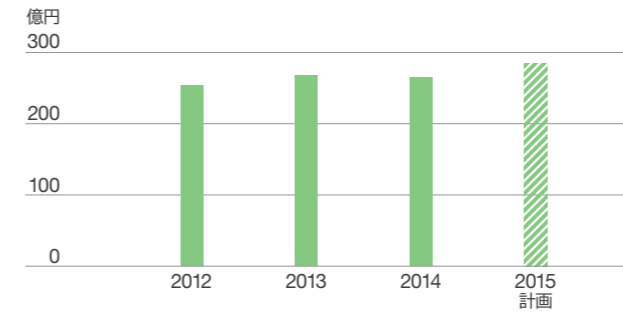
※2012年から国内事業の分野別売上高の開示区分が一部変更になっております



住設システム分野は、間口調整を1cm刻みで気軽におこなえるシステムキッチンと、めんどろな浴槽そうじの負担を給湯器との組み合わせで解消する「おそうじ浴槽」をノーリツグループならではの強みとして展開しています。2015年はシステムキッチン、システムバスともに、さらに暮らしを豊かにする新製品を投入していきます。

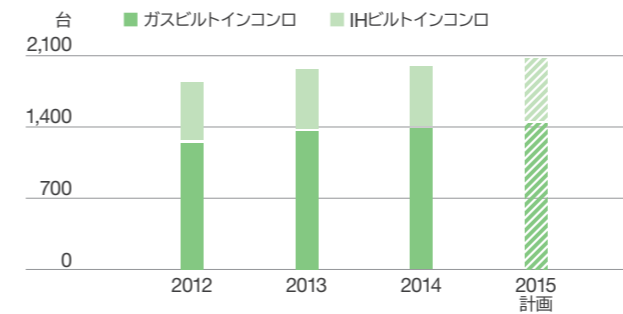
## 厨房分野

### 売上高



※2012年から国内事業の分野別売上高の開示区分が一部変更になっております

### ビルトインコンロ需要



※1口コンロを除く

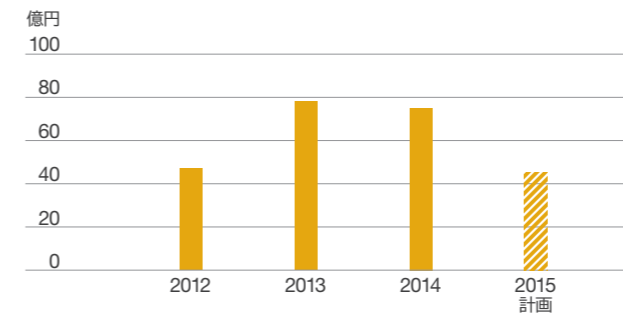


厨房分野は、省エネかつ安定した炎でお客さまの調理を支援する独自バーナーを強みにビルトインガスコンロを主力商品に展開しています。ガスコンロの需要は、2011年以降年々増加しており、かつ調理性・清掃性・デザイン性に優れた付加価値の高い商品の普及が進んでいます。2014年は厨房のブランドをノーリツに統一しました。又、「ツイストスイッチ」「マルチグリル」「スマホ対応」などの業界初の機能を数多く搭載した新製品「スマートコンロ」を発売しました。

2015年もガスビルトインコンロの需要は堅調に推移すると予想します。「スマートコンロ」で好評だった、焼く、煮る、蒸すといったグリルでの調理を簡単にできる「マルチグリル」を搭載したビルトインコンロのラインナップを充実させていきます。

## 新エネルギー分野

### 売上高



※2012年から国内事業の分野別売上高の開示区分が一部変更になっております  
 ※2010年までは新エネルギー分野は区分しておりません  
 ※2014年3月時点の情報です



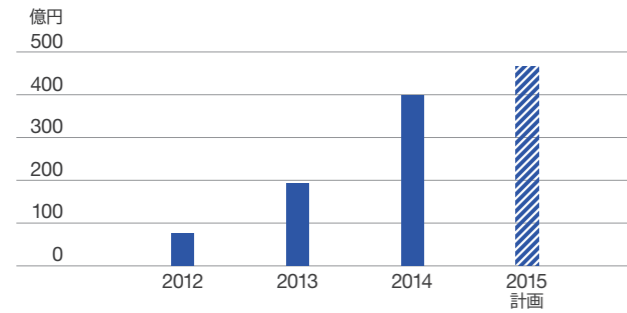
新エネルギー分野は、太陽熱温水器、産業用太陽光発電の普及を進めています。太陽熱温水器の取り扱い開始から約30年。現在は太陽エネルギーとガスエネルギーの組み合わせで、年々拡大する環境・省エネニーズへの対応を進めています。2011年に参入した家庭用太陽光発電システムからは、市場環境の変化により2015年度内の撤退を予定しています。



# 海外事業

## 中国

### 売上高



中国では1993年に現地企業との合弁会社を設立し進出。当時多くの企業が中国で生産した製品を自国に輸出していた時代に、当社は中国の方にお湯のある豊かな暮らしをお届けするため、資本と技術を提供しました。上海に工場を有し、日本と同じレベルの品質管理を行っています。2013年には中国全土で展開する住宅設備機器メーカー「櫻花衛厨(中国)股份有限公司」\*に出資しました。安全・安心ニーズが高まる中、品質の高さを強みに中国での成長を進めています。

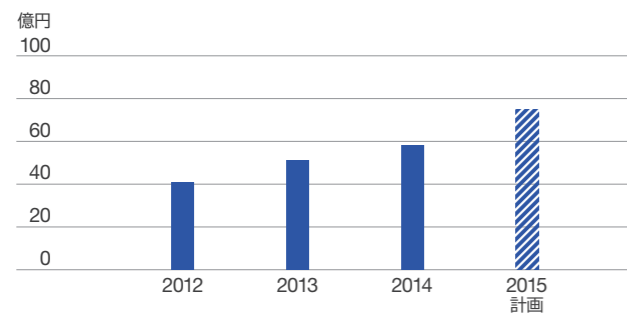
2014年は通期で連結した櫻花衛厨(中国)股份有限公司の業績が加わり増収となりました。上海では付加価値商材の普及が進み、内陸部ではガス需要の増大、都市インフラの整備、生活水準の向上などにより、ガス瞬間式給湯器の普及が進んでいます。2015年も引き続きこのような市場環境は継続すると予想します。

\*詳細につきましてはP.36で紹介しております



## 北米

### 売上高

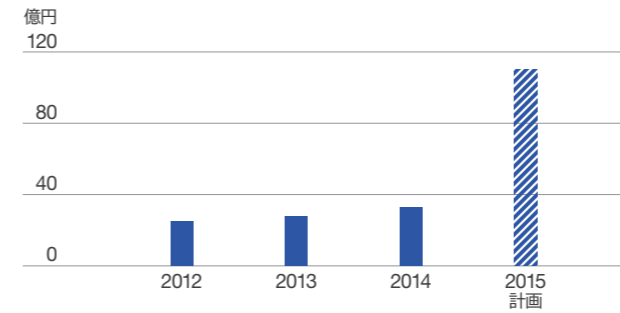


北米では、2002年からガス瞬間式給湯器の販売を開始しました。現在、カリフォルニア州を中心にジョージア州、カナダなどでの展開を進めています。北米市場は貯湯式給湯器が市場の大半を占める中、環境・省エネ性の高いガス瞬間式給湯器の普及が進み、近年では付加価値の高いコンデンシングタイプの構成比が高まっています。2014年は北米ニーズに合致する新製品の投入を積極的に進めました。2015年1月には、貯湯式給湯器からガス瞬間式給湯器の取り換えを容易にする新製品を本格発売するなど、環境・省エネ性の高い商品の普及を進め着実な成長を図ります。



## その他

### 売上高



香港、南米、欧州などではガス瞬間式給湯器のOEM展開を進めています。2014年12月には豪州の老舗給湯器メーカーDux Manufacturing Limited\*を完全子会社化し、豪州の給湯器市場に本格参入。Dux Manufacturing Limitedが強みを持つ伝統的な貯湯式給湯器に、ノーリツが強みを持つガス瞬間式給湯器のラインナップを追加することにより、2015年の業績拡大を図ります。

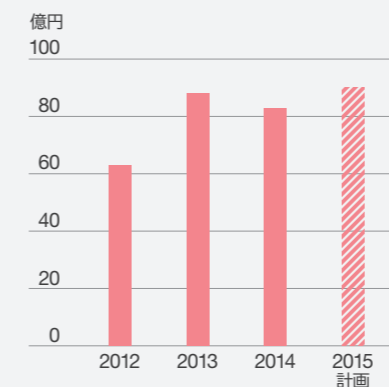
\*詳細につきましてはP.36で紹介しております



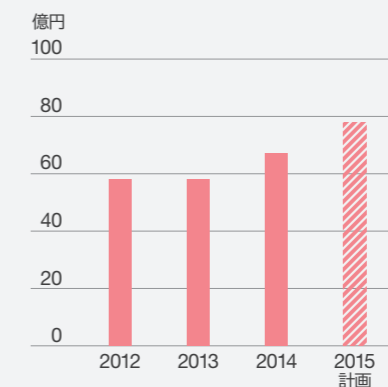
調印式の様子

### 参考データ (国内・海外事業)

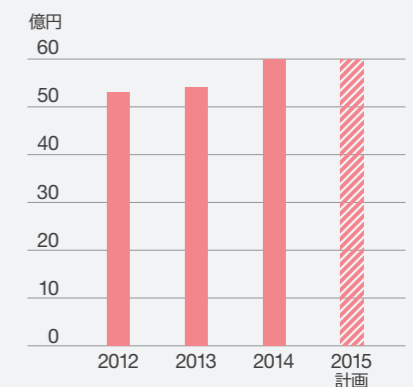
#### 設備投資額



#### 減価償却費



#### 研究開発費





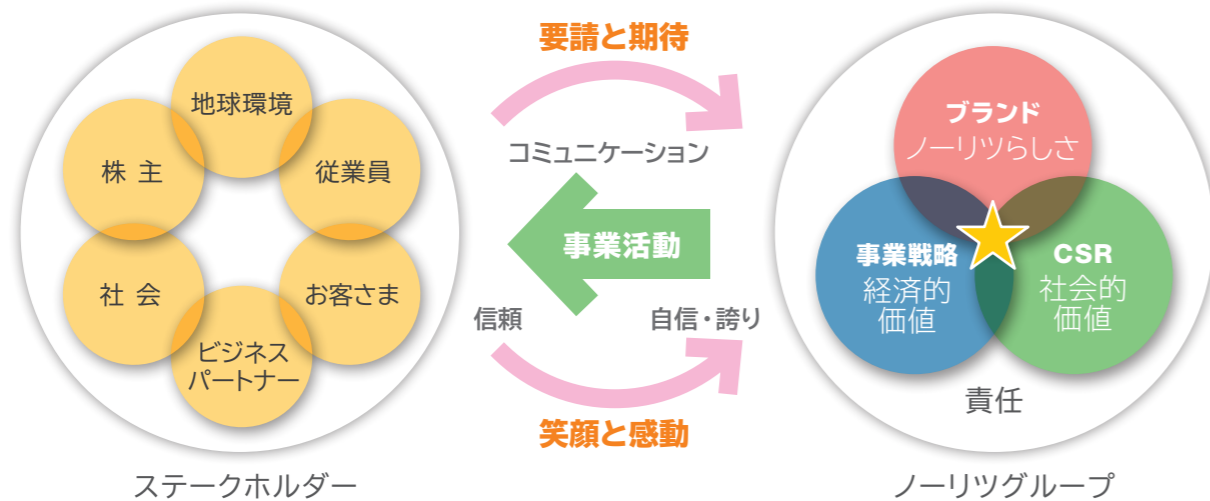
# CSR

## ノーリツグループのCSR方針

### CSR方針

地球環境を含むすべてのステークホルダーの皆さまの新しい幸せをわかしていくこと

### CSRの取り組み



ノーリツグループは、ステークホルダーの皆さまとの双方向コミュニケーションを通して社会の要請と期待を感じ取り、「事業戦略に沿った経済的価値の追求」「社会の課題解決に貢献する社会的価値の向上」「ブランド戦略と呼応したノーリツらしさの追求」の3つを深く融合した事業

活動を進めています。この取り組みを通して、社会的責任を自主的に果たすことにより、地球環境を含むすべてのステークホルダーの皆さまの笑顔と感動、すなわち“新しい幸せ”をわかしていくことをCSR方針としています。

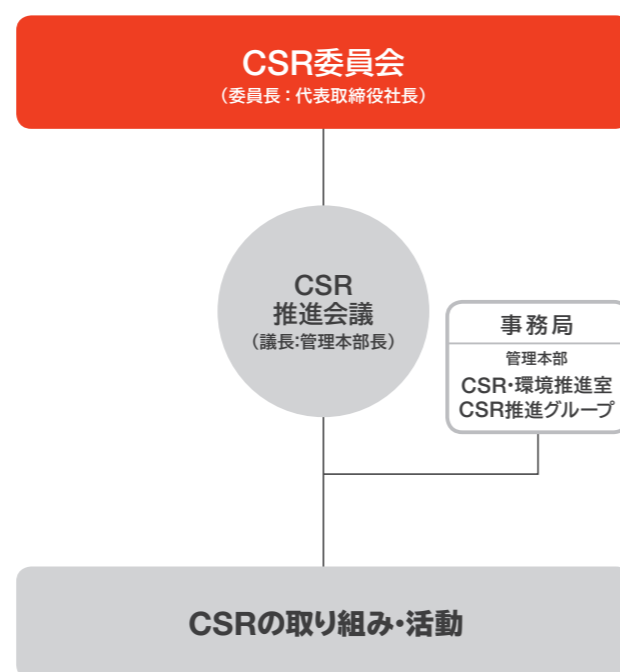
## ノーリツCSR委員会

ノーリツグループでは、多様なステークホルダーからの要請や期待に対して、迅速な意思決定を図ることを目的として、2007年よりCSR委員会を設置・開催しています。代表取締役社長が委員長を務め、取締役、執行役員、監査役で構成されるCSR委員会は年2回開催され、CSRの課題について審議・決定します。この決定内容に基づいてP・D・C・Aマネジメントを推進しています。

2014年は株式会社日本総合研究所の村上様に参加いただき、第三者意見の内容について意見交換をおこないました。



年2回開催される「CSR委員会」



## Quality

> P19-24

「品質」への拘りは、私たちの文化であり強みの一つです。品質の源泉であり多様な個性を有する人材、製品の情熱を具現化する技術力、貴重なご意見を下さるお客さま……。私たちは、品質を支える「見えない資産」を活用し、事業活動を通じて社会に貢献していきます。

## ノーリツの見えない資産



ノーリツグループの価値創造をご理解いただく上で、私たちの「見えない資産（財務諸表に載らない資産）」をお伝えすることも大切と考えています。ここでは、私たちが大切にしている「見えない資産」を“Q+ESG”というキーワードでご紹介します。



## Environment

> P25-26

私たちは、「エコ・ファースト企業」として「きれいな地球を次の世代へ」をスローガンに環境管理システムを構築し、環境負荷低減をはじめとした具体的な計画をもとに、当社グループ全体で地球環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

## Society

> P27-28

私たちは創業以来、社会との関わりを重視してきました。事業成長を果たし、より多くの雇用を創出し、地域社会に貢献することは勿論ですが、事業活動以外での社会貢献も大切にしています。“より多くの幸せをわかすこと”を目標に、できることを真心こめて取り組みます。

## Governance

> P29-32

当社グループの長期的な企業価値創造には、正しい経営判断や迅速な意思決定は欠かすことが出来ません。幅広いステークホルダーの利益を考慮し、透明性が高く、より健全な企業経営が実行できる仕組みや体制を整備していきます。





Quality

# ノーリツの品質を支える「人材」

## 品質教育制度

### 品質教育

お客さまの快適な暮らしを支えるお湯を安心してお使いいただくため、品質を第一に考え、ノーリツグループ従業員に対し力量に応じた段階別品質教育を実施しています。研修では、各人の能力を力量表にて定量的に把握し、必要な知識・技能を適切に提供することで、お客さま満足に繋げる活動をしています。

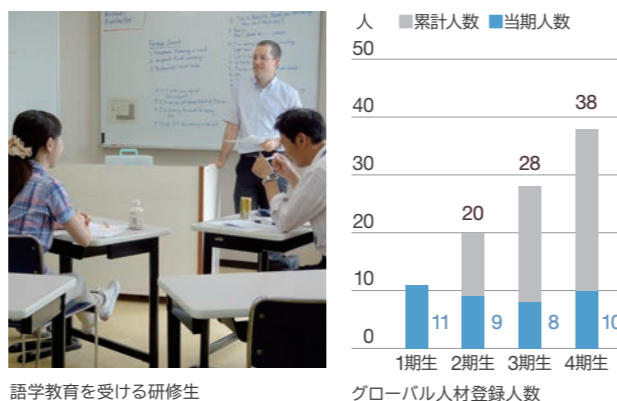
2014年は、品質一般手法の「ばらつき」「QC七つ道具」「信頼性工学」、不具合解析手法の「なぜなぜ分析」「FMEA・DRBFM」など24コースを32回、延べ489名に研修をおこないました。



## グローバル人材を育成する取り組み

### グローバル人材登録制度

今後さらに進んでいくグローバル化に対応する人材を育成するため、語学力や異文化対応力の向上を図る制度を設けています。この制度は社内公募の1つで、選ばれた従業員は1年間の登録期間中に語学学習、通信教育、異文化理解を深めるための研修などを受講します。4期目を迎えた今年は登録者が累計38名となり、海外事業をサポートできる体制の構築を推進していきます。



語学教育を受ける研修生

グローバル人材登録人数

### 米国短期研修制度

日本と海外の連携強化を図るために2014年1月からスタートした制度で、国内の開発部門やスタッフ部門の従業員を米国現地法人に派遣しています。2014年は、6名の従業員を派遣しました。3か月間現地で業務に携わり、現地法人や米国市場の理解を深めるとともに、現地で生活することにより異文化理解にも努めています。この経験を生かしてグローバルに活躍できる人材を育成し、海外事業を推進していきます。

**研修者の声** ノーリツアメリカでの3か月。この経験は、必ず次の技術開発に生かす。

3か月の研修を通じて、米国の市場・文化を肌で感じる事ができました。この経験を米国ニーズに応えることができる商品開発に生かしていきます。

成果発表をおこなう研修生

## 多様な個性が活躍できる職場環境へ向けて

### 障がい者雇用

2014年は、障がい者従業員のサポート体制を充実させるために職場適応援助者（ジョブコーチ）資格を1名、職業生活相談員資格を7名取得しました。また、保護者との個別面談会では、31名の保護者と就業状況や家庭生活状況について話し合い、今後の育成ポイントなどの意見交換を実施しました。

また、12月に開催された「第35回兵庫県障がい者技能競技大会・アビリンピック兵庫2014」に5名が参加し、仕事を通じて学んだ技能をいかに発揮しました。本大会では製品パッキン競技の部において敢闘賞を受賞しました。



特例子会社スコアハーツでの作業の様子

### 女性の活躍推進

ノーリツグループでは2005年からさまざまな部門の女性従業員を募り、「女性が自分らしく生き活きと働ける会社＝みんなが自分らしく生き活きと働ける会社」という仮説を設け、具体的な課題遂行に取り組む「ビタミンWスクエア」を展開しています。

8期目となる2014年は、①キャリアイメージの構築、取り組み、実現につながる機会づくり、②ビタミンならではの魅力的な情報・交流の機会づくり、③「女性の特性」と「個人の特性」の違いを正しく理解するサポート、の3点を課題とし、女性およびその上司向け社内セミナーの開催、外部セミナーの紹介、仕事と育児の両立支援ガイドの作成などを実施しました。



女性向けキャリアセミナー

## 経営者と従業員の積極的な対話

### ビジョンCafé

「経営と現場とのコミュニケーションによるビジョンの共有と実現」を目的に、代表取締役社長の國井が現場を回り、グループ従業員と対話を深める「ビジョンCafé」。グループビジョン「新しい幸せを、わかすこと。」の実現を目指し、経営者としての思いを語り、その思いを受けた従業員と意見交換をしています。2014年は製造に関わるメンバーを中心に開催し、スタートからの4年間でほぼ全ての部門・グループ会社を訪問しました。



ビジョンCaféの様子







Quality

# 「技術」を通じた価値創造

## 脈々と流れる技術のDNA

発売年度	商品	特徴	給湯熱効率
1951	さめないタイル風呂「能率風呂A型」	りんご箱1つの薪で沸き上がり、保温効果で湯が冷めにくい専売特許の風呂釜	—
1961	ガス風呂釜「GS型」	航空機のエンジンラジエーター技術を活かした業界で初めてのアルミ製ガス風呂釜	—
1970	浴室内から種火の点火・消火が出来る「マジコン」	浴室内から点火・消火を始めて可能にした操作装置	—
1977	ガス瞬間貯湯型給湯器「ユービック」	業界で初めて100V電源を導入したワンタッチ点火のコンパクトな屋外設置型給湯器（給湯器のノーリツを確立した製品）	—
1979	瞬間式給湯器と風呂釜を一体化させた「ユラージュ」	瞬間式給湯器と風呂釜を一体化させ、複合という給湯器のスタンダードを確立した製品	76%
1982	強制追だし式ガスふろ給湯器「ユコアGT」	業界で初めてポンプを内蔵し、離れた場所や2階浴室への設置が可能になった給湯付風呂釜	81%
1987	ガス温水暖房付ふろ給湯器「GTH」	温水暖房、給湯、ふろ沸かしが一体となった製品	81%
2001	高効率業務用給湯器	ノーリツ初の高効率給湯器。初めて2次熱交換器を搭載し、中和器を内蔵した「エコジョーズ」の原型になった製品	91%
2002	高効率ガス温水暖房付ふろ給湯器「GTH-C」	業界で初めて熱効率95%を達成し、コンパクトさを実現した製品	95%
2004	高効率ガスふろ給湯器「エコジョーズ」	排気の潜熱を回収するシステムを開発し、熱効率を15%向上させた製品	95%
2013	ハイブリッド給湯・暖房システム	「エコジョーズ」と空気の熱を利用したヒートポンプ技術を合体させたハイブリッド製品	125%*

\*給湯一次エネルギー効率：ハイブリッド給湯・暖房システムはこれまでの給湯器の熱効率とは、算出方法が異なります

## 快適な湯質を生み出す 燃焼制御技術、熱交換技術、流体制御技術の組み合わせ

ノーリツグループは、安定したお湯を提供するために、高度な燃焼制御技術、熱交換技術、流体制御技術を組み合わせ、安定したお湯を提供する技術力を強みに製品開発を進めています。

### 熱交換技術

コンパクトな大きさと高効率を実現するには、熱交換器の水管の配置や燃焼ガスの流し方が重要です。さらに高効率となると、耐食性も必要となります。数値解析と入念な実験確認をおこない、信頼性の高い熱交換器の開発を進めています



### 燃焼制御技術

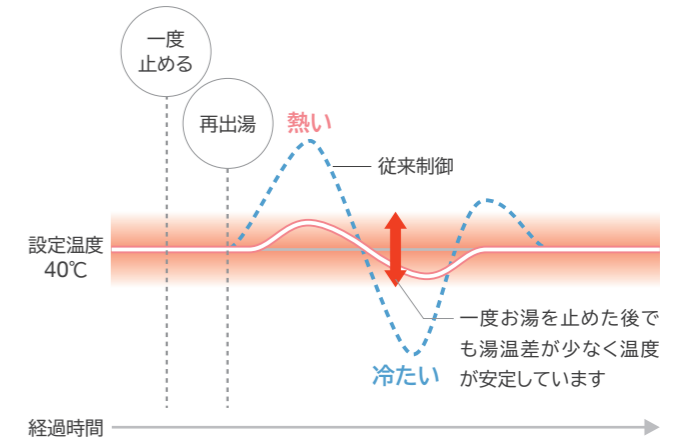
限られた空間で燃料を十分に燃焼させるためには、必要な量の空気と燃料を決められた濃度で燃焼部に供給する必要があります。さらに低NOx燃焼をおこなうために、きめ細かい制御と火災の安定性を追求しています

### 流体制御技術

温度が安定した快適なお湯を作るために、水の温度と量を測り、水とお湯を混合し、必要な温度と量のお湯に調整します。このための制御機器やセンサーの開発を進めています

当社グループは、世界一快適な「お湯の質」を目指し、長年研究開発に努めています。ガス給湯器発売当初から、一度お湯を止めて再びお湯を出す際、急に熱いお湯が出たり、逆に冷たい水が出たりしていたことがありました。ノーリツはこのような冷水サンドイッチ現象によりお客さまが感じる不快感の改善に向けた技術を開発してきました。1991年に「PRO-TECメカ」という技術開発を成功させ、湯温差が少なく安定したお湯をお客さまに提供しています。この技術は、現在も質の良いお湯を届ける当社の製品開発のコア技術となっており、ほぼ全ての給湯器に採用しています。私たちは、「お湯の質」に拘り、新たな技術を生み出し続けていきます。

### 冷水サンドイッチ現象の図



熱効率

# 95%

## エコジョーズ

ノーリツのエコジョーズは少ないガス量で効率よくお湯を沸かす、省エネルギーを実現した給湯器です。これまで捨てていた排気熱を有効に利用し、給湯器に送られてきた水を予備加熱することで給湯熱効率を従来の約80%から95%にすることが出来ました。独自の潜熱回収システムにより、大気中への熱の放出を低減するためCO<sub>2</sub>の排出量を従来品より約15%削減できる、地球環境に優しい製品です。

排気：約200℃

従来タイプ

排気：約50℃  
従来捨てていた約200℃の燃焼ガスを利用して加熱

エコジョーズ





# Quality その他の活動

## お客様の声に耳を傾け、品質に活かす

### お客様サービス品質の向上

ノーリツグループでは、お客様のお問い合わせやご意見を真摯に受けとめ、ものづくりや各種サービスに活かすことにより、お客さまとの信頼関係の向上につなげています。コンタクトセンターでは、特にお客様サービス品質を左右する電話応対について、その品質向上に向けた取り組みをしています。



明石市磯町に位置するコンタクトセンター

#### お問合せ対応品質を高める

お問い合わせへの対応品質を高めるべく、レベル別研修を実施しています。

とくに、公益財団法人日本電信電話ユーザ協会が認定している「電話応対技能検定(もしもし検定)」の資格取得を会社として推奨しており、現在、指導者級含め多数の資格取得者が在籍しています。

また、お客様のご意見やお困りごとを集約し、さらなる対応品質の向上に役立てています。



対応品質向上に向けた座学研修

#### お客様への迅速な応対

東西に拠点のある修理受付センターでは、システムの一元化を図り、お客さまからのお電話に迅速に対応できるよう効率化をおこなっています。

修理、故障に関する受付は365日24時間対応しています。

#### 商品開発に役立てる

コンタクトセンターでは、「お客様の声検討会」を定期的実施し、お客様のご意見を商品開発や改善に活用し、お客さまが商品を使われる場面での満足度向上に努めています。



お客様の声検討会

お客様の声より  
見やすさを改善したリモコン  
左:旧 右:新



## 品質を高める活動

### 製品品質の向上

#### 品質大会

2014年8月に、繁忙期に向けた体制強化・品質意識の向上を目的に「ノーリツ品質大会」を開催しました。

第1部では120名が参加し、品質向上に成果を上げた改善事例の社内表彰を実施しました。また、9月から本格運用をしているSSM<sup>※</sup>活動についての講演を受け、お客さまの期待に応え、より良い製品を一丸となって提供していくことを確認しました。

第2部では協力会社57社98名と、上期品質状況の共有をおこない、繁忙期に向けての課題を確認しました。



「ノーリツ品質大会」で表彰を受けた従業員

※ストレス・ストレングスマodel:過去の不具合事例を体系化し、全社で共有することで今後の設計に生かす手法

#### 部品品質向上の取り組み

品質向上に向けた論理的な思考力を共に身に付けるため、継続的に部品メーカーに出向いて、実例をもとに「工程FMEA」「なぜなぜ分析」を実施しました。この活動を通じて、人材の育成につなげていきます。

### 物流品質の向上

#### フォークリフトコンテスト

2014年の開催で第8回目となったフォークリフトコンテスト。

大型商品や異型商品の取り扱いが増えている中、さらなる荷扱いの品質アップと、日々の出荷ダイヤ遵守のため時間内での作業完了が求められていることを踏まえ、競技内容を決定しました。

コンテストを通じて、安全と物流品質の向上をねらいとしています。



フォークリフトコンテストの様子

### 2014年7月 ノーリツグループCSR調達ガイドラインの制定

ノーリツグループは、2014年7月にCSR視点での調達活動を推進するために、「ノーリツグループCSR調達ガイドライン」を制定しました。当社グループは、調達方針に基づき、サプライヤーとの信頼関係をもとに、公平公正で地球環境に配慮した調達活動を展開しています。社会からは「持続可能な発展への貢献」とい

う大きな期待が寄せられており、持続可能な社会を作っていくことが当社グループの社会的責任であると認識しています。当社グループは最終ブランドメーカーとして、サプライチェーン全体への活動が求められており、当社グループ企業理念、基本姿勢や行動基準をもとに、社会の要請や期待を反映して本ガイドラインを制定しました。

#### ノーリツグループ CSR調達ガイドライン項目

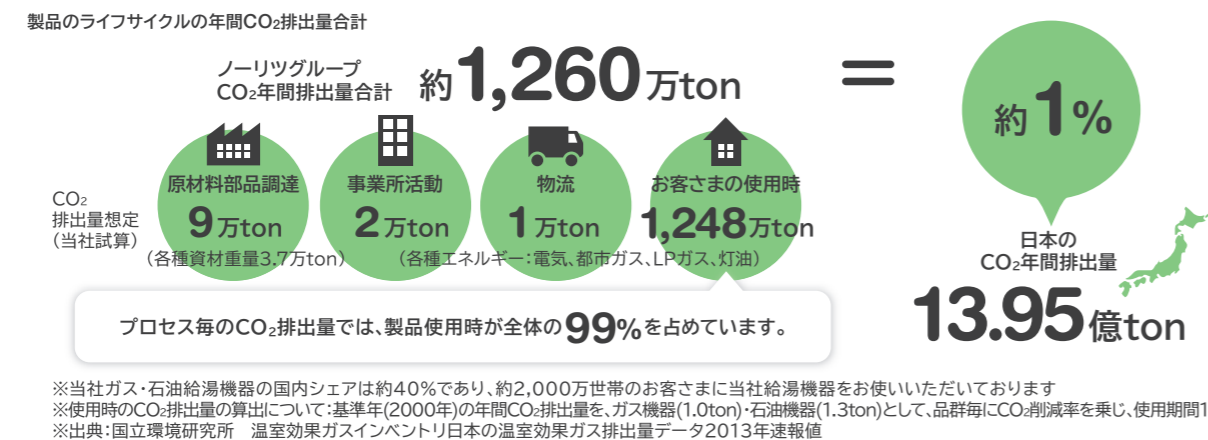
- 人権の尊重
- お客様の満足度向上
- 法令遵守と企業理念に  
もとづいた企業活動
- 公正で透明性のある取引
- 地球環境・社会との共生
- 労働環境の整備





### 環境配慮への責任

ノーリツグループは、約3.7万tonの資源と各種エネルギーを投入し、ライフサイクルを通して約1,260万tonのCO<sub>2</sub>を排出しています。これは日本全体のCO<sub>2</sub>排出量約13.95億ton\*に対して約1%を占めていることになります。



### 「eco検定」取得の推進

ノーリツは、従業員のeco検定(環境社会検定：東京商工会議所主催)の取得を積極的に推進しています。2014年はトップ自ら率先して取得するなど、環境問題に対する知識と意識を高めています。



### 「省エネ大賞」を受賞

当社の「家庭用ハイブリッド給湯・暖房システム」が、一般財団法人省エネルギーセンター主催の「平成26年度省エネ大賞」製品・ビジネスモデル部門において「省エネルギーセンター会長賞」を受賞。「省エネ大賞」は、省エネ社会の実現を目指して創設されたもので、国内で省エネを推進している優れた事業者や製品を表彰する賞です。当社の「家庭用ハイブリッド給湯・暖房システム」は、戸建住宅用の給湯システムにおいて給湯一次エネルギー効率トップレベルの125%を実現。さらに業界で初めてノンフロン冷媒を採用した点などが評価されました。



### エコ・ファーストの約束



#### ガス・石油機器業界で初めて「エコ・ファースト企業」の認証を受けました

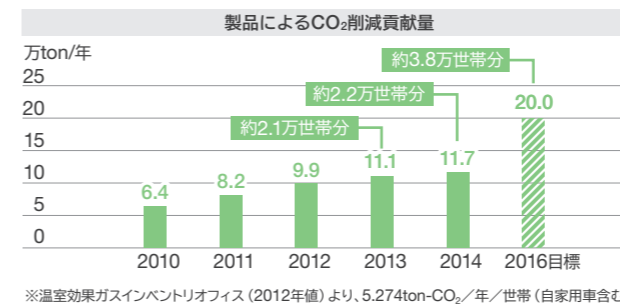
エコ・ファースト制度とは、業界トップランナー企業の環境保全をさらに促進していくため、企業が環境大臣に対し自らの環境保全に関する取り組みを約束する制度であり、2008年4月に創設されました。ノーリツグループは、2009年3月9日にガス・石油機器業界で初めて「エコ・ファースト企業」の認定を受け、さまざまな環境への取り組みについて社会との約束をおこないました。また、2012年3月22日に目標の見直しをおこない、「エコ・ファーストの約束」を更新しました。

#### エコ・ファーストの約束と現状について

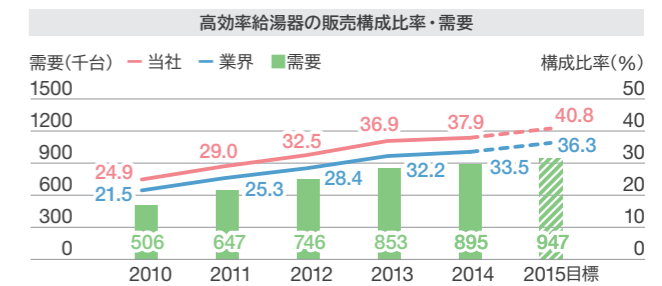
当社グループは、「企業の成長」と「環境推進」の両立をめざした「エコ・ファーストの約束」を策定しています。

#### 1 製品を通じた低炭素社会の構築

従来型ガス石油温水機器(2000年時)に比べ、家庭使用時のCO<sub>2</sub>排出量を20万ton/年削減することを目指します。(2016年目標)

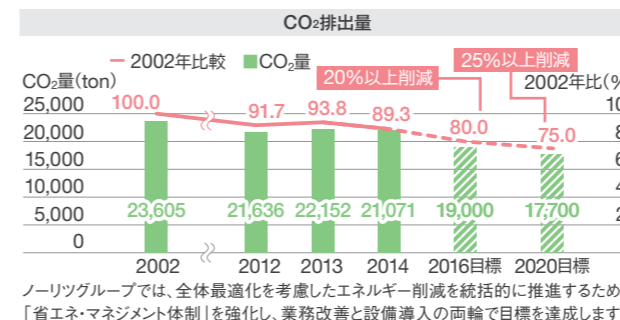


高効率温水機器および、創エネルギー機器の開発推進とそれぞれの特長を活かした普及促進に積極的に取り組みます。



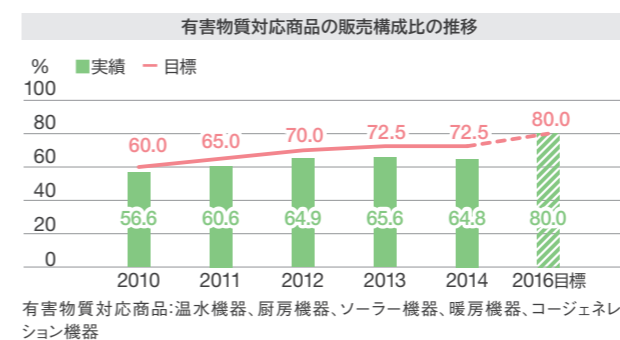
#### 2 事業活動を通じた低炭素社会の構築

国内事業書におけるCO<sub>2</sub>排出量を25%以上(2002年比)削減することを目指します。(2020年目標)



#### 3 法規制を先取りした化学物質管理の強化

有害物質対応商品の販売構成比を80%以上にします。(2016年目標)



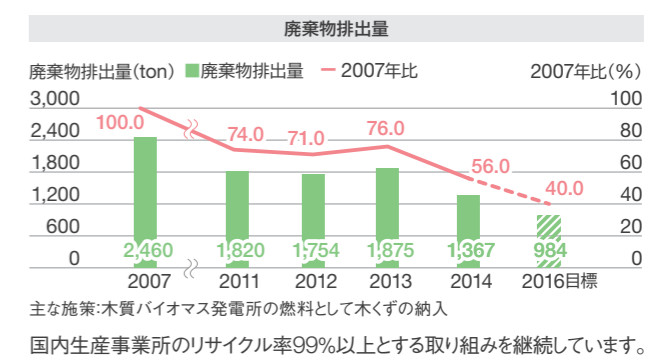
#### 温室効果ガス排出量の第三者検証

2013年度の温室効果ガスの排出量の正確性について第三者検証を行い、限定的保証を受けました。

対象データ：事業活動に伴うエネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出量(スコープ1およびスコープ2)  
 対象範囲：NAM事業所(明石本社工場、本社開発センター、環境機器開発センター、生産技術開発センター、総合研修センター)  
 検証機関：ビューロベリタスジャパン株式会社  
 検証方法：ISO14064-3:2006の要求事項に従い検証実施  
 温室効果ガス排出量検証報告書

#### 4 製品・事業活動を通じた資源循環型社会の構築

生産活動に伴い発生する廃棄物について、事業所外に排出する量を60%以上削減することを目指します。(国内生産事業所2007年比)





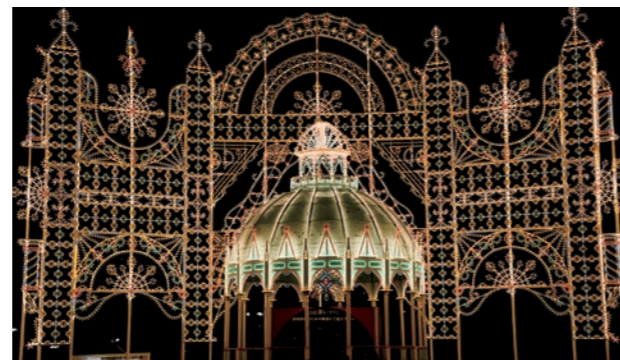


## 災害復興支援

### 阪神・淡路大震災復興支援

神戸ルミナリエは、阪神・淡路大震災の犠牲者の鎮魂・追悼を祈念し、被災した都市の復興・再生の夢と希望を託して震災の年に開始され、今年で20回となりました。ノーリツグループは、当時被災し支援を受けた神戸の一企業として、微力ではありますが、開催支援金と従業員による寄付を毎年おこなっています。

また、2012年からは会場周辺を中心としたボランティア活動もおこなっており、2014年は117名が参加しました。今後も神戸ルミナリエの運営に協力してまいります。



毎年12月に開催される「神戸ルミナリエ」

©Kobe Luminarie O.C.

### 東日本大震災復興支援

みちのく未来基金は東日本大震災で親御さまを亡くされた遺児たちの高校卒業後の進学を支援するための基金です。子どもたちが将来の夢を諦めることがないように多くの個人や企業が力を合わせて支援しています。ノーリツグループも従業員から義援金を募り、また対象商品の販売台数に応じた会社からの義援金を合わせて同基金へ寄贈しました。



公益財団法人みちのく未来基金を訪問

### 広島土砂災害復興ボランティア

2014年8月20日に広島市北部安佐南区・安佐北区で発生した土砂災害のボランティア活動をおこないました。従業員が声を上げ、労働組合を含めた有志が計3回総勢10名が参加し、田畑の土砂運び出しや家屋の泥のかき出し等の復興支援をおこないました。



土砂運び出しのボランティア

## 地域社会貢献

### 薪割り体験イベントを共催

薪風呂釜販売から事業を起こしたノーリツの歴史と、公園や樹木の大切さを学ぶ事を目的に、薪割り体験イベントを5月と11月に開催しました。

明石公園の伐採木を有効活用し、公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会、国立明石工業高等専門学校との共催でおこないました。11月には薪ストーブで沸かしたお湯を使った「足湯コーナー」を提供し、地域の皆様楽しんで頂きました。



薪割りを楽しむ地域市民たち

### 職業体験“トライやる・ウィーク”

ノーリツグループでは、兵庫県主催で中学2年生が職場体験を通じて地域について学び「生きる力」を育むことを目的として開催されている「トライやる・ウィーク」の主旨に共感し、1998年から毎年協力をしています。また、当社グループと地域のコミュニケーションの場としても活動しています。

明石市の中学生に対し、明石本社工場などで会社紹介や生産ラインの見学と様々な部門での職場体験を通じ、働くという事について学ぶ機会を提供しています。



職業体験をする明石市の中学生

### ノーリツアメリカの取り組み

ノーリツアメリカでは従業員が協力し、地域の社会貢献活動の一環として、毎年クリスマスの時期に子どもたちへおもちゃの贈り物をしています。

2014年はCHOC※に入院している子どもたちに贈り物をしました。また、11月の収穫祭の時期には、地元の非営利団体による飢餓と栄養失調の防止を目的とした食品寄付活動、「OCフードバンク運動」に協賛しました。

※CHOCとはカリフォルニア州に設立された非営利の小児科専門病院で、難病を抱えた子どもたちが入院しています



子どもたちへの贈り物

OCフードバンクへの食品寄付

## スポーツ支援活動

### ノーリツ女子陸上競技部

1992年、地元神戸にてノーリツ女子陸上競技部を創設しました。スポーツ支援活動を通じて、青少年スポーツの育成と振興、地域社会の発展に貢献しています。

市民マラソンにも積極的に参加し、全日本女子駅伝や女子マラソンの国際大会への出場など、活躍の場を年々拡大しています。



ノーリツ女子陸上競技部選手一同

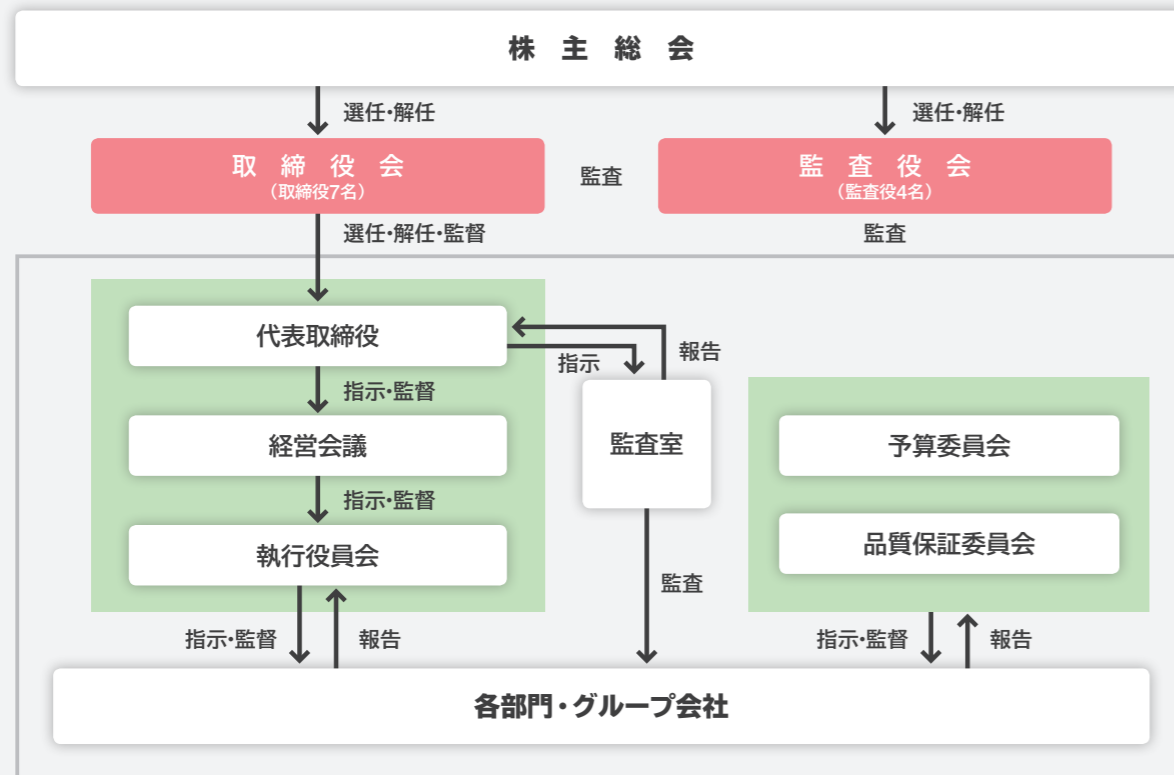




## コーポレート・ガバナンスの体制

ノーリツは、取締役会と監査役・監査役会によるコーポレート・ガバナンス体制を採用しています。取締役会は、社外取締役1名を含む7名の実務取締役で構成され、毎月開催される定時取締役会や必要に応じて開催される臨時取締役会により、経営に関する重要事項について意思決定をおこないます。社外取締役につきましては、独立した立場から経営判断の合理性を確保することや、経営の効率性を改善することを目的として設置しています。

監査役会は、社外監査役2名を含む4名の監査役で構成され、毎月開催される定時監査役会で、取締役会に上程される議案を事前に審議しています。社外監査役につきましては、取締役の職務執行に対する監査を独立した立場からおこなうことを目的として設置しています。

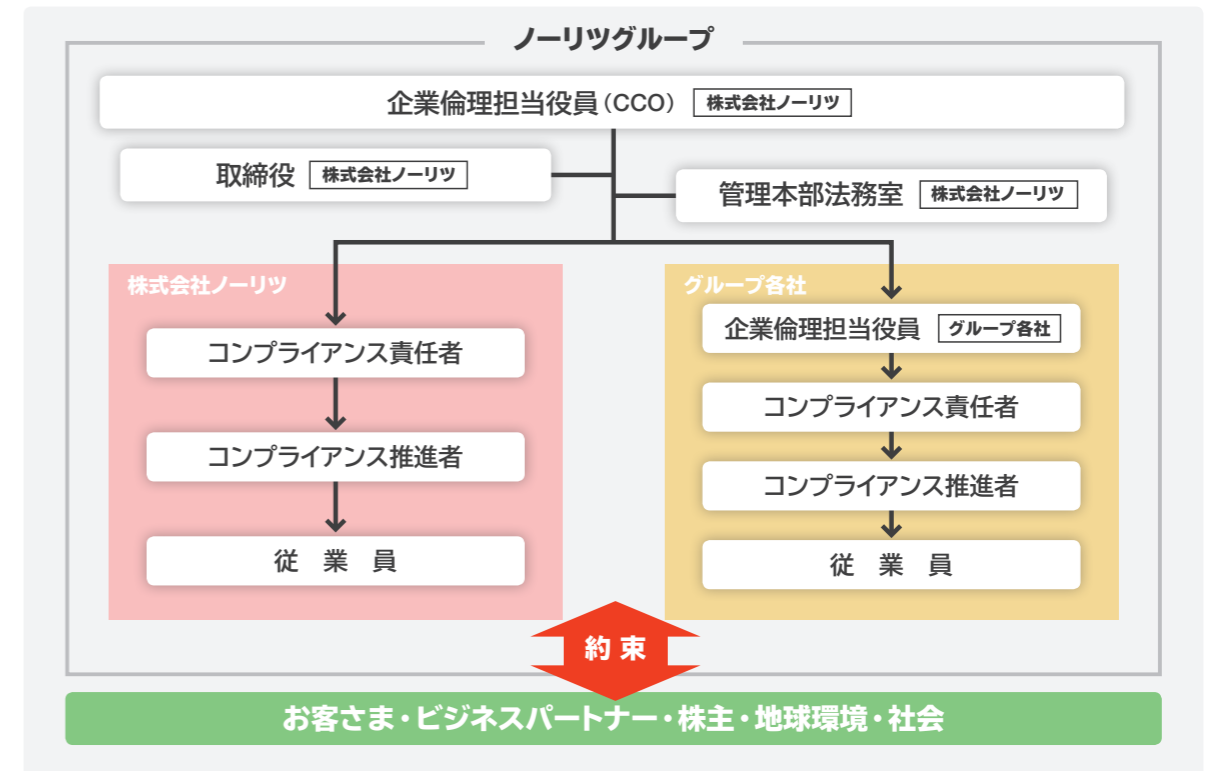


## コンプライアンスの定義

ノーリツグループでは、コンプライアンスを「法令、定款、社内規程および社会規範等も含めた『企業倫理』の遵守」と定義しています。

## コンプライアンス推進体制

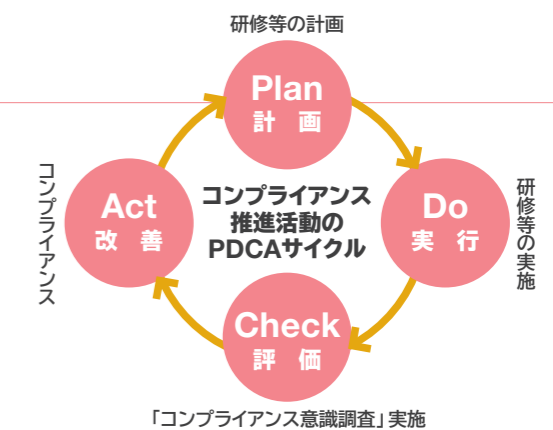
ノーリツグループでは、グループ内のコンプライアンスを実践するため、次のような推進体制を確立し、運用しています。



## コンプライアンス推進活動

ノーリツグループ全体としてコンプライアンス意識が浸透・定着した組織風土を実現するために、次のようなコンプライアンス推進活動を継続実施しています。

- ・ 新入社員、新任管理者、各部門のコンプライアンス責任者・推進者を対象とした「コンプライアンス研修」
- ・ グループ全体の各部門が同一のテーマについて考える「コンプライアンス月間」(毎年5月・9月に実施)



### 2014年の活動

- 国内**
  - ・ ノーリツグループ全体のコンプライアンス風土の定着を図るため、これまでの「ノーリツグループ行動基準」を大幅に改定し日本語版(4月)と英語版(9月)を作成しました。また、国内グループ会社とノーリツアメリカ全従業員へ配布し、周知徹底しています。
- 国内**
  - ・ 毎年5月、9月にコンプライアンス月間を設けました。
  - ・ 8月コンプライアンス意識調査の実施と調査結果に対するフィードバックをおこないました。
- アメリカ**
  - ・ 9月行動基準改定時に、全従業員に課題の提出を義務づけました。
  - ・ 12月マネージャー、スーパーバイザー向けにセクシャルハラスメント研修を実施しました。



### 取締役および監査役

(2015年3月27日現在)



代表取締役社長 兼 代表執行役員  
國井 総一郎

1976年 4月 当社入社  
2003年 3月 当社取締役  
2009年 9月 当社代表取締役 兼 代表執行役員



取締役 兼 専務執行役員  
大滝 俊之

1979年 4月 当社入社  
2003年 3月 当社取締役  
2014年 9月 当社取締役 兼 専務執行役員 海外事業統括、国際事業本部長



監査役  
澤田 考之

1979年 4月 当社入社  
2000年 7月 当社管理本部財務部長  
2011年 3月 当社常勤監査役



監査役  
明里 一平

1977年 4月 第一生命保険相互会社(現第一生命保険株)入社  
2005年 4月 当社管理本部長付担当部長  
2008年 3月 当社執行役員管理本部総務部長  
2010年 3月 当社常勤監査役



取締役 兼 専務執行役員  
仲村 貴文

1980年 5月 当社入社  
2005年 3月 当社取締役  
2014年 9月 当社取締役 兼 専務執行役員 国内事業統括



取締役 兼 常務執行役員  
小関 良之

1977年 4月 当社入社  
2010年 1月 当社執行役員経営企画室長  
2015年 3月 当社取締役 兼 常務執行役員 管理本部長



監査役(社外)  
高橋 秀明

1966年 4月 ㈱神戸銀行(現㈱三井住友銀行)入行  
1995年 7月 同行取締役神戸営業部長  
1998年 6月 (株)さくらケーシーエス代表取締役社長  
2013年 3月 当社社外監査役



監査役(社外)  
永原 憲章

1984年 4月 弁護士登録  
2006年 3月 当社社外監査役  
2007年 1月 神戸十五番館法律事務所代表  
2007年 6月 日工㈱社外監査役



取締役 兼 常務執行役員  
水間 勉

1980年 4月 当社入社  
2007年 1月 当社執行役員営業本部大阪支社長  
2015年 3月 当社取締役 兼 常務執行役員 営業本部長



取締役 兼 常務執行役員  
腹巻 知

1983年 4月 当社入社  
2011年 1月 当社執行役員研究開発本部副本部長  
2015年 3月 当社取締役 兼 常務執行役員 研究開発本部長



取締役(社外)  
小川 泰彦

1982年 6月 公認会計士登録  
1987年 5月 税理士登録  
2009年 3月 当社社外監査役  
2013年 3月 当社社外取締役(現任)  
2013年 6月 ㈱大阪証券取引所(現㈱大阪取引所)社外監査役

※略歴につきましては、一部を記載しております

#### 社外取締役からのメッセージ

## コーポレートガバナンスの視点を大切にして 積極的な行動をとってまいります。

取締役(社外) 小川泰彦

私は公認会計士及び税理士としての専門的知見に基づき、独立社外取締役の役割、責務として経営の監督を行っています。そのため取締役会の事前開催される定時監査役会に加わり、ここで国内事業の収益性向上や海外事業の成長など企業価値向上を図るための議案に対する審議内容を理解し、取締役会に臨みます。これは私がかつて当社社外監査役を務めていた時、非常に有用

であったため社外取締役就任後も継続しているものです。また当社取締役会は社外役員であっても自由に発言できるよう運営されています。私は少数株主を含めてステークホルダーの利益に配慮した公平で公正な決定がなされるよう取締役会で発言機会を求め、問題点の指摘や質問など、積極的に行動することが重要な役割であると認識しています。



# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表(百万円)

資産の部	2013.12	2014.12
流動資産		
現金及び預金	27,090	21,439
受取手形及び売掛金	59,343	60,428
有価証券	620	4,932
たな卸資産	16,454	20,544
繰延税金資産	1,696	1,323
その他	6,072	5,831
貸倒引当金	△ 235	△ 257
流動資産合計	111,041	114,242
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	15,003	16,452
機械装置及び運搬具(純額)	6,201	7,937
土地	10,018	9,983
建設仮勘定	656	619
その他(純額)	3,240	3,053
有形固定資産合計	35,121	38,047
無形固定資産		
のれん	6,834	5,624
その他	3,536	10,257
無形固定資産合計	10,371	15,881
投資その他の資産		
投資有価証券	29,528	31,918
長期貸付金	620	657
繰延税金資産	2,201	2,843
その他	3,351	3,353
貸倒引当金	△ 911	△ 882
投資その他の資産合計	34,790	37,890
固定資産合計	80,283	91,819
資産合計	191,324	206,061

負債の部	2013.12	2014.12
流動負債		
支払手形及び買掛金	40,937	41,225
短期借入金	3,182	1,800
未払法人税等	1,619	1,197
賞与引当金	2,016	1,201
役員賞与引当金	42	34
製品保証引当金	1,007	1,240
製品事故処理費用引当金	21	449
事業整理損失引当金	-	854
未払金	11,038	10,440
その他	7,110	9,595
流動負債合計	66,976	68,039
固定負債		
繰延税金負債	751	2,353
役員退職慰労引当金	45	51
製品保証引当金	771	1,425
退職給付引当金	8,733	-
退職給付に係る負債	-	11,508
その他	4,373	4,439
固定負債合計	14,674	19,777
負債合計	81,651	87,816
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,167	20,167
資本剰余金	22,956	22,956
利益剰余金	58,539	60,583
自己株式	△ 5,084	△ 5,088
株主資本合計	96,579	98,620
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,265	10,162
繰延ヘッジ損益	3	991
為替換算調整勘定	2,834	5,185
退職給付に係る調整累計額	-	△ 1,531
その他の包括利益累計額合計	10,103	14,807
少数株主持分	2,990	4,816
純資産合計	109,673	118,244
負債純資産合計	191,324	206,061

## 連結損益計算書(百万円)

	2013.12	2014.12
売上高	200,327	218,943
売上原価	140,773	150,599
売上総利益	59,554	68,344
販売費及び一般管理費	49,884	60,936
営業利益	9,670	7,407
営業外収益	1,845	2,368
営業外費用	458	337
経常利益	11,058	9,439
特別利益	582	146
特別損失	2,095	4,163
税金等調整前当期純利益	9,545	5,421
法人税、住民税及び事業税	3,290	2,605
法人税等調整額	△ 344	△ 703
法人税等合計	2,945	1,901
少数株主損益調整前当期純利益	6,599	3,520
少数株主利益	211	40
当期純利益	6,387	3,479

## 連結キャッシュ・フロー計算書(百万円)

	2013.12	2014.12
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,673	13,476
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,430	△ 14,658
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 574	△ 2,814
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,502	1,334
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	171	△ 2,662
現金及び現金同等物の期首残高	26,765	26,936
現金及び現金同等物の期末残高	26,936	24,274

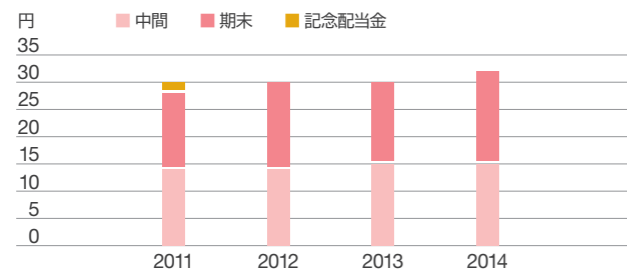


## 株主・株式について

### 株主還元の方

ノーリツは、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと位置づけております。配当につきましては継続的かつ安定的に実施することを基本とし、財務体質の健全性を維持しつつ経営環境を踏まえ連結業績や連結ベースの配当性向を勘案したうえでおこなうことを方針としております。

### 配当金の推移



### 株式の状況 (2014年12月31日現在)

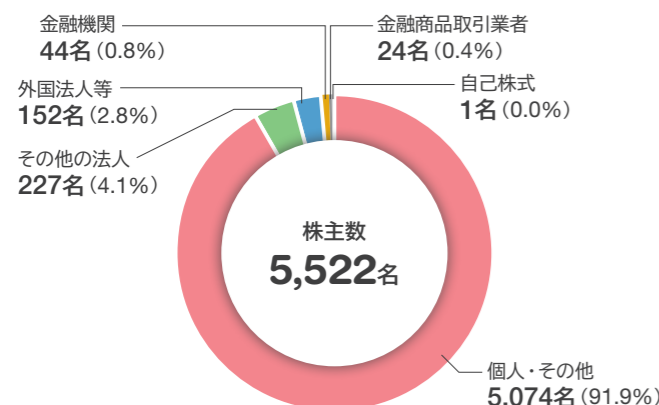
発行可能株式総数 156,369,000株 発行済み株式の総数 50,797,651株 株主数 5,522名

### 大株主の状況

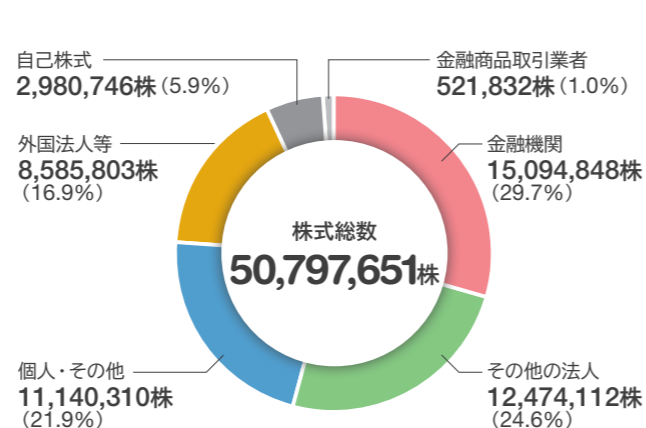
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
第一生命保険株式会社	2,967,000	6.20
エムエスアイピークライアントセキュリティーズ	2,538,917	5.31
株式会社三井住友銀行	2,199,695	4.60
ノーリツ取引先持株会	2,151,409	4.50
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,633,600	3.42
ノーリツ従業員持株会	1,429,915	2.99
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,399,300	2.93
太田敏郎	1,350,100	2.82
日本電気硝子株式会社	1,119,300	2.34
TOTO株式会社	1,100,300	2.30

※大株主上位10名を記載しております ※当社保有分は記載しておりません ※持株比率は、自己株式分を控除して計算しております

### 所有者別株主分布状況



### 所有者別株式分布状況



### 株主とともに

ノーリツでは、四半期に1回、決算発表をおこなっています。また2月と8月には決算説明会、3月には株主総会を開催しています。

また、個人株主さまを対象にした、当社工場見学のイベントを年に1回実施しています。



## 海外グループ会社紹介



櫻花衛厨(中国)股份有限公司は中国全土で展開する住宅設備機器メーカーです。江蘇省と広東省に工場を有し、ガス給湯器、ガスコンロ、レンジフード、電気温水器などの生産・販売を中国国内で展開しています。これまで当社グループは能率(中国)投資有限公司で、主に上海エリアを中心に主力のガス給湯器の普及を進めてきましたが、今後は櫻花衛厨(中国)股份有限公司との製品の相互補完やエリア・チャンネル戦略などでシナジーを創出し、中国市場でのさらなる企業価値の向上を目指します。

### 櫻花衛厨(中国)股份有限公司 概要

本社所在地	江蘇省昆山市青陽南路1号
取扱商品	ガス給湯器、ガスコンロ、レンジフード、電気温水器、消毒器、シンク、蛇口、浴室暖房、換気扇など
設立	1994年
売上高	247億円(2014年)



Dux Manufacturing Limitedは、豪州を代表する貯湯式給湯器のトップメーカーの一つです。豪州では、Dux Manufacturing Limitedが強みを持つ伝統的な電気・ガス貯湯式給湯器と、ノーリツが強みを持つ日本式のガス瞬間式給湯器が市場を大きく二分しています。近年は、ガス瞬間式給湯器の需要が増加傾向にあり、Dux Manufacturing Limitedの強力な販売ルートを通じてノーリツ製のガス瞬間式給湯器を拡販し、豪州の市場を拡大していきます。

### Dux Manufacturing Limited 概要

本社所在地	LOT 1 Collins Road Moss Vale NSW
取扱商品	電気温水器、ガス貯湯式給湯器、ガス瞬間式給湯器、ヒートポンプ、ソーラーなど
設立	1915年
売上高	72億円(2014年)





# CSRに関する「第三者意見」

## 2014年 ご意見と対応状況

昨年発行した「CSRレポート・ダイジェスト 2014」に関する第三者からのご意見やアンケート、ホームページなどを通じて、様々なご意見をいただきました。主なご意見とノーリツグループの対応をまとめました。

寄せられたご意見	2014年度のノーリツグループの対応
人権、労働、CSR調達に対する要求	社内講師による新入社員・階層別人権研修の実施、CSR調達ガイドラインの制定と人権研修の開催、ノーリツグループ行動基準への明記をおこないました。
人権のバリューチェーンの洗い出しがなされていない	紛争鉱物調査に向けた仕入先説明会の実施と調査開始。ビジネスパートナーへのサプライチェーンマネジメントヒアリング。

## 2014年度の取り組みに対する第三者意見

### 第三者意見

ノーリツグループのCSRの取り組みとその情報開示に基づき、第三者意見を提出します。

ノーリツグループは、2012年にガス石油機器業界で初めて国連グローバル・コンパクトに署名されました。署名企業による分科会活動には、CSR推進部門のみではなく経営企画部門、資材購買部門、営業部門からも参加をされ、部門横断的に社外との交流を通して活動を進める姿勢を評価致します。2014年には、行動基準の改定、CSR調達ガイドラインの制定をおこなわれ、CSR活動の基礎になる方針等の整備が進みました。

CSR活動の情報開示については、「NORITZ REPORT 2015」に刷新されました。事業の歴史、直近の事業状況や、品質・環境・社会・ガバナンスの情報を束ね、統合報告を意識した内容となっています。今後、海外事業にあわせた多言語での展開も進められることを期待致します。

CSR活動の内容では、人権やサプライチェーン・バリューチェーンにおける取り組みを強化していかれると伺いました。ノーリツグループのステークホルダーにとっての「あたりまえのこと」に配慮するという姿勢で事業活動を点検し、ステークホルダー満足の上につなげられることを期待致します。

CSRマネジメントでは、マテリアリティの特定や非財務KPI目標の設定など、意欲的な計画をお持ちです。ここで最も重要だと考えるのは、CSRの推進がどのようにノーリツグループの「経営品質と企業価値」の向上に結び付いていくのかという関係性です。既に中期経営計画には「CSRの視点」を反映させておられますが、次期中期経営計画では、CSR推進によってどのように企業価値向上を果たすのか、明示されることを期待致します。



株式会社 日本総合研究所  
創発戦略センター/ESGリサーチセンター マネジャー 村上 芽

(なお、この意見は、このレポートが、一般に公正妥当と認められる環境報告書等の作成基準に準拠して正確に測定、算定され、かつ重要な事項が漏れなく表示されているかどうかについて判断した結果を表明するものではありません。)

### 第三者意見を受けて

村上様、社外第三者の視点に立った貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

この度のNORITZ REPORT 2015では、ノーリツグループの創業以来の成長の軌跡と、事業戦略および、Q+ESG (品質+環境・社会・ガバナンス) という視点でどの様に社会に貢献し、企業価値向上に繋げようとしているかを伝えるべく心がけました。村上様にその趣旨を感じていただき嬉しく思います。

2014年度の当社の主なCSRの取り組みは、エコ・ファースト企業としての温室効果ガス削減をはじめとした環境活動はもとより、国連グローバル・コンパクト署名企業として社会の要請と期待を積極的に感じ取り、企業活動の基礎ともいべき当社グループ行動基準の改定をおこないました。この中では人権対応などグローバル経営に欠かせない基本姿勢を明確にしました。また、コンプライアンス月間を設け、新た

な行動基準について従業員が考える機会も持ちました。これらの結果は従業員アンケート調査で確認し、改善を図っていきます。さらに社会への影響が大きい調達面でも、サプライチェーンマネジメントを意識したCSR調達ガイドラインを新たに制定し、開示すると共に社内・社外への働きかけを開始しました。

今後は、ステークホルダーの期待や懸念を反映したCSRの重要課題を特定し、経営品質および企業価値の向上、ひいては社会と当社グループの持続的成長に向けて積極的に取り組んでまいります。

今後もこれらの活動状況をステークホルダーの皆さまに開示し、コミュニケーションを深めてまいります。

株式会社 ノーリツ 取締役兼常務執行役員  
小関 良之

## 発刊にあたって

### 「NORITZ REPORT 2015」へ込めた思い

前回発行した「ノーリツ会社案内/CSRレポート・ダイジェスト 2014」に寄せられたご意見を反映し、今回初めて「NORITZ REPORT 2015」という財務と非財務を統合したレポートを制作しました。ここには私たちの熱い思いが込められています。私たちのCSR活動への考えは、自社が生み出す製品と事業活動で幸せな社会作り貢献していくというものです。より本質的な部分を多くのステークホルダーの皆さまに知っていただくには、私達ノーリツグループがどの様に価値を創造していくかという視点で様々な活動をご報告すべきと考えました。今回は2015年度版として、2014年12月期の活動を中心にご報告をさせて頂いておりますが、より長期の視点で編集致しました。それは、このレポートを読んでもいただく方々は当社グループと長期にお付き合いいただいている方、もしくはその可能性がある方々を中心としたステークホルダーの皆さまだからです。このレポートを通して、私たち当社グループの本質的価値と可能性を感じて頂ければ、とても嬉しく思います。

制作チーム 一同

### 「NORITZ REPORT 2015」WEBアンケートのお願い

最後までお読み頂き、ありがとうございました。

今後の活動と次年度の制作に生かしてまいりますので、アンケートにご協力をお願い致します。下記のURLにアンケートフォームの入り口をご用意しております。

その他、CSR活動の詳細も下記のWEBサイトにてご覧いただけます。



[www.noritz.co.jp/csr](http://www.noritz.co.jp/csr)



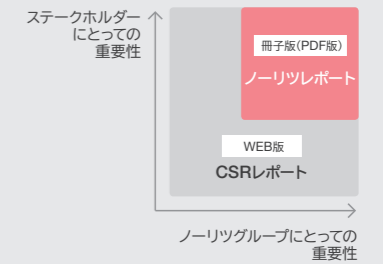
## 会社概要

社名	株式会社 ノーリツ
設立	1951年3月
本社所在地	神戸市中央区江戸町93番(栄光ビル)
資本金	20,167百万円
代表取締役社長兼 代表執行役員	國井 総一郎
従業員数	3,042名(単体) 9,422名(連結) 2014年12月31日現在

## 報告内容

対象期間	2014年度 (2014年1月1日~12月31日) ※一部2015年度の活動も掲載しています
対象範囲	株式会社ノーリツ及び、 国内外のグループ会社
参考ガイドライン	ISO26000, GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン」第4版、 国連グローバル・コンパクト、 環境省「環境報告ガイドライン」2012年版
前回発行月	2014年4月発行
次回発行月	2016年4月発行予定

## 報告メディアの考え方



新しい幸せを、わかすこと。



## 将来の見通しに関して

本報告書に記載されている、ノーリツおよびノーリツグループの2015年3月31日時点の計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは将来の見通しであり、リスクや不確定な要因を含んでいます。実際の業績などは、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。